

令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

厚生労働科学特別研究事業

新型コロナウイルス感染症流行前後における

親子の栄養・食生活の変化及びその要因の解明のための研究

令和2年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 森崎 菜穂

令和3（2021）年 5月

目 次

I 総括報告書.....	1
新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化及びその要因の解明のための研究.....	2
森崎菜穂	
II 分担報告書.....	8
1. コロナ禍における親子の食生活の変化に関するアンケート調査.....	9
研究分担者 半谷まゆみ	
2. 新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の食事と健康に関する実態調査の設計と実施.....	12
研究分担者 森崎菜穂、研究協力者 Aurelie Piedvache、研究協力者 田中久子	
3. 新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言下、緊急事態宣言後における世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関係.....	41
研究分担者 村山伸子、研究協力者 堀川千嘉	
4. 新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言下、緊急事態宣言後における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関係.....	49
研究分担者 村山伸子、研究協力者 堀川千嘉、研究協力者 三瓶舞紀子	
5. 新型コロナウイルス感染症流行期(2020年4-10月)における給食の実施状況について.....	59
研究分担者 森崎菜穂、研究協力者 田中久子	
6. 給食調査の解析結果：簡易給食について.....	71
研究分担者 村山伸子、研究協力者 小島唯	
III 研究成果の刊行に関する一覧表.....	83

令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(厚生労働科学特別研究事業)

令和2年度 総括研究報告書

新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化及びその
要因の解明のための研究

研究代表者 森崎菜穂 国立成育医療研究センター社会医学研究部
研究分担者 村山伸子 新潟県立大学人間生活学部
半谷まゆみ 国立成育医療研究センター社会医学研究部

研究要旨

本研究では、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）流行前後における子どもの栄養・食生活の状況の変化および要因を明らかにすることを目的に①家庭調査（住民基本台帳に基づき抽出した集団における郵送による質問紙調査およびWEB調査）および②自治体調査を行った。

まず、全国の住民基本台帳から二層化無作為抽出した小5・中2への郵送調査の結果からは、2020年度4-5月に実施された緊急事態宣言下ではその前後と比べて、肉・魚・卵、野菜、果物、乳製品のいずれの食品群においても、1日2回以上摂取している者の割合が減少していたことが分かった。また、1日2回以上摂取している者の割合は、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後とも一貫して、所得が低いほど、そして保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが低いほど、有意に低いことがわかった。そして、こどもと保護者を対象とした無記名アンケート形式のインターネット調査からは、コロナ前と比べて間食の機会や量が増えた子どもや、コロナ前と比べて食事をつくる心の余裕が少なくなった、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなったという保護者が多くいることがわかった。また、全国205校から回答を得た学校給食の実施状況に関する調査からは、全体の26.8%の学校で簡易給食が実施されていたこと、また簡易給食の実施が短期間の学校の献立では単品の提供が多く、長期間の献立では、主食・主菜・副菜を組み合わせた献立が提供されていたことが分かった。

本調査から、コロナ流行により子どもの栄養摂取状況に影響があった可能性が示唆された。本調査結果は子どもの適切な栄養状態の確保と栄養格差の是正に向けた施策に資することが期待される。

A. 研究目的

今般の新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）情勢により強いられた家庭内環境の変化や、休校・分散登校や新しい生活様式に合わせた学校給食提供体制の変更により、子どもの健康および栄養状態が悪化していることが危惧される。子どもの食生活は家庭環境が大きく影響するが、保護者の抑うつ傾向や経済状況への不安、虐待行動の増加は、緊急事態宣言解除後（6月下旬）にまだ改善しておらず、家庭環境の状況が子どもの食事状況に影響を与えている可能性が想定される。

一方、子どもの適切な栄養素摂取の担保に貢献していることが報告されている学校給食においても、休校措置に伴い数ヶ月にわたり提供されなかった上、授業数確保のために多くの学校で実施される夏季の授業時も給食提供が見送られている。子どもの貧困対策としても機能している子ども食堂も感染症防止の影響により閉鎖される等、子どもの栄養・食生活を支える状況が大きく変化している。また、「新しい生活様式」の実践のため、現時点でも給食が平時より簡素な簡易給食となっている学校も一定数ある。このような学校給食の提供体制の変化による影響は、学校給食がない日の栄養格差は世帯収入で異なることが報告されていることから、貧困世帯など一部の家庭でより強い格差を生むことが危惧される。しかし、コロナによる子どもの栄養状態とその格差の変化の実態については、明らかになっていない。

そこで、本研究では、①家庭調査（住民基本台帳に基づき抽出した集団における郵送による質問紙調査およびWEB調査）により、コロナが流行する前後の親と子どもの家庭での食事を含めた生活実態を把握し、家庭背景（社会経済的状況（緊急事態宣言時の食生活支援状況含む）、保護者の就労状況、栄養に関する知識など）による食事状況の違いや変化を明らかにし、②自治体調査において、学校給食の提供状況および簡易給食の栄養素等提供状況の実態を明らかにすることを通して、コロナ流行前後における子どもの栄養・食生活の状況の変化および要因を明らかにすることを目的とした。本調査による成果は、子どもの適切な栄養状態の確保と栄養格差の是正に向けた施策に資する基礎資料として提示でき、健康格差研究の発展につながることを期待された。

B. 研究方法

本研究では、①家庭調査にて、コロナ流行前後の親と子どもの家庭での食物摂取状況等および生活状況を調査、②自治体調査にて、給食提供状況およびその変化による栄養素等提供内容の変化を調査した。

家庭調査は、新型コロナウイルスの感染流行第3波、感染者数増加傾向が著明となった2020年11月から12月にかけてWEB調査を、そして2020年12月に住民基本台帳を用いた郵送調査（全国から層化無作為抽出された小5、中2の児童・生徒を対象）を行った。

自治体調査では、住民基本台帳調査を行

った 50 自治体を対象に、給食に関する郵送調査を行い、簡易給食を実施している学校からの給食献立表を収集し栄養計算することで行った。

C. 研究結果

①コロナ禍における親子の食生活の変化に関するアンケート調査（分担：半谷まゆみ）

本研究では、こどもと保護者を対象とした無記名アンケート形式の繰り返し横断調査「コロナ×こどもアンケート」の第4回調査において、コロナ流行後の学校給食の提供状況、コロナ流行前との食事変化、関連する生活や環境の変化などの項目を追加し、調査した。本項目は保護者のみを対象とした。

今回の調査で、コロナ前と比べて間食の機会や量が増えた子どもが3割近くに上る結果が示された。また、コロナ前と比べて食事をつくる心の余裕が少なくなったと回答した保護者は約3割、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなったと回答した保護者は約1割であった。

こどもの食生活には、就寝時間の後ろ倒しや外遊び機会の減少などに加え、親の仕事環境の変化やストレス状況なども影響しうる。より詳細な調査による実態把握とともに、間食増に対する注意喚起や、家庭への精神的・経済的支援などを検討する必要がある。

②新型コロナウイルス感染症流行前後にお

ける親子の食事と健康に関する実態調査の設計と実施

（分担：森崎菜穂）

本分担研究では、前後における子どもの栄養・食生活の状況の変化および要因を明らかにすることを目的に住民基本台帳に基づき抽出した集団における郵送による質問紙調査を実施した。

有効回答率が30%であることを想定して、発送数を3000とした。調査者の選定は、まず8地域区分（北海道・東北、関東、北陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）に基づき8つのブロックに分け、各ブロック内からそれぞれ6~7つの自治体、計50自治体は無作為に抽出し、各自治体の住民基本台帳から小学5年生の児童または中学2年生の生徒がいる世帯の住所を30世帯抽出し、これらに調査票一式を送付した。

発送数に対して調査票の回収数は保護者票が1551/3000(52%)、子ども票が1536/3000(51%)と予想より高かった。これには、回答者への事後謝品を用意したこと、リマインドハガキを送ったこと、新型コロナウイルス感染症にこどもの気になる症状に関するパンフレットを同封したこと、などが要因になったと考えられる。

③ 新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言下、緊急事態宣言後における世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関係（分担：村山伸子）

本研究では、緊急事態宣言下および緊急事

態宣言後における世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関連を明らかにすることを目的とした。

郵送調査参加者のうち、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感について、欠損データの無い1111名を最終的な分析対象とした。新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取している者の割合は、所得の違いにかかわらず、緊急事態宣言前よりも有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻った。くわえて、低所得群では、高所得群と比較して、緊急事態宣言後は、その一年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なくなり、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、所得のどの分位でも、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で1日2回以上摂取出来ている状況に戻ることが明らかになった。特に、緊急事態宣言下では、最も所得が少ない群と次に所得が少ない群において肉・魚・卵および野菜をいずれも1日

2回以上摂取している者の割合が少なかった。

④ 新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言下、緊急事態宣言後における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関係

(分担：村山伸子)

本研究は、緊急事態宣言下および緊急事態宣言後における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関連を明らかにすることを目的とした。児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルについて、欠損データの無い1107名を最終的な分析対象とした。分析は、 χ^2 二乗検定、一元配置分散分析、ポアソン回帰分析を用いた。結果、新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況の違いにかかわらず、緊急事態宣言前よりも有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻った。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い群では、高得点群と比較して、緊急事態宣言後は、その一年前よりも、食事を

作る時間や心の余裕が少なく、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点に関わらず、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後は、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻ることが明らかになった。特に、緊急事態宣言下では、特に保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が少ない群で割合が少ないことが明らかとなった。

⑤ 新型コロナウイルス感染症流行期(2020年4-10月)における給食の実施状況について (分担：森崎菜穂)

本調査は、2020年4～10月の学校給食の提供状況を全国的に調査し、コロナ流行時における学校給食の実態を明らかにすることを目的とした。調査項目は、「給食なし」、「通常給食」、「簡易給食」、「不明」、「休校/長期休暇」であり、2020年4～10月の給食実施状況について、カレンダー式で回答することとした。該当期間中の土日祝日を除き、簡易給食を1回以上実施した学校は55校であり、全体の26.8%が実施していた。市区町村別にみると、平均して10日以上簡易給食があったのは9自治体であった。簡易給食は全国的なものではなく、限定的(8自治体)かつ長期的(10～40日程度)である

ことから、該当自治体の子どもの給食提供状況は、平常時とは異なっていたことが推察される。全国的に、簡易給食の実施日数が多い自治体ほど、通常給食の実施日数が少ないため、自治体によっては、子どもたちが十分な栄養を摂取できていなかった可能性が考えられる。

⑥ 給食調査の解析結果：簡易給食について (分担：村山伸子)

解析対象校は205校であった(適格率42.8%)。簡易給食を1日以上実施していた学校は55校であった(実施率26.8%)。給食実施なし日数、簡易給食実施日数の中央値(25,75%タイル値)は各々50(43-56)日、10(5-16)日であった。緊急事態宣言の期間が長い地域で、給食実施なし日数が多かったが、簡易給食実施日数に差はみられなかった。解析対象献立は、延べ871日分であった。簡易給食実施期間が短い学校の献立で調理された料理数が少なく、調理の不要な単品数が多く、主菜、副菜の出現頻度が低かった一方、デザートなどの単品の出現頻度が高かった。

D. 考察

本研究では、家庭調査および自治体調査を通してコロナ流行による子どもの栄養摂取状況の影響を調べた。

全国205校から回答を得た学校給食の実施状況に関する調査からは、全体の26.8%の学校で簡易給食が実施されていたこと、また簡易給食の実施が短期間の学校の献立で

は単品の提供が多く、長期間の献立では、主食・主菜・副菜を組み合わせた献立が提供されていたことが分かった。

また、こどもと保護者を対象とした無記名アンケート形式のインターネット調査からは、コロナ前と比べて間食の機会や量が増えた子どもや、コロナ前と比べて食事をつくる心の余裕が少なくなった、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなったという保護者が多くいることがわかった。

そして、全国の住民基本台帳から二層化無作為抽出した小5・中2への郵送調査の結果からは、2020年度4-5月に実施された緊急事態宣言下ではその前後と比べて、肉・魚・卵、野菜、果物、乳製品のいずれの食品群においても、1日2回以上摂取している者の割合が減少していたことが分かった。また、1日2回以上摂取している者の割合は、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後とも一貫して、所得が低いほど、そして保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが低いほど、有意に低いことがわかった。

これらの結果は、学校給食が家庭背景の違いを超えて、子どもの望ましい食事摂取に寄与する重要な食事及びシステムであること、そして、緊急事態宣言下では、給食が実施されないためにその保障から外れたこと、そして所得が低かったり、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが低いほど、そのような非常事態では子どもの望ましい食事摂取が維持しにくいことを示している。

今後さらに、新型コロナ流行下において、世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関係を継続的な検討を行うとともに、世帯の社会経済状態にかかわらず望ましい食生活をいとなむための環境整備や、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルをより望ましいものにしていくための環境整備や情報の発信、教育が求められる。

E. 結論

本研究から、コロナ流行により子どもの栄養摂取状況に影響があった可能性が示唆された。本調査結果は子どもの適切な栄養状態の確保と栄養格差の是正に向けた施策に資することが期待される。

新型コロナウイルス感染症流行前後における 親子の栄養・食生活の変化およびその要因の解明のための研究

分担研究報告書

1. コロナ禍における親子の食生活の変化に関するアンケート調査

研究分担者： 半谷まゆみ（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

研究要旨

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）流行に伴い、子どもたちの就寝時間やスクリーンタイムなどの生活習慣に少なからず影響が出ていることが指摘されている。

今回、子どもと保護者を対象とした無記名アンケート形式の繰り返し横断調査「コロナ×子どもアンケート」の第4回調査において、コロナ流行後の学校給食の提供状況、コロナ流行前との食事変化、関連する生活や環境の変化などの項目を追加し、調査した。本項目は保護者のみを対象とした。

今回の調査で、コロナ前と比べて間食の機会や量が増えた子どもが3割近くに上る結果が示された。また、コロナ前と比べて食事をつくる心の余裕が少なくなったと回答した保護者は約3割、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなったと回答した保護者は約1割であった。

こどもの食生活には、就寝時間の後ろ倒しや外遊び機会の減少などに加え、親の仕事環境の変化やストレス状況なども影響する。より詳細な調査による実態把握とともに、間食増に対する注意喚起や、家庭への精神的・経済的支援などを検討する必要がある。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症（コロナ）の流行は、世界中の子どもたちの生活や健康にも影響を及ぼしている。

コロナ禍における日本の子どもたちの生活と健康の様子を明らかにするために繰り返し実施している無記名アンケート式横断調査「コロナ×子どもアンケート」では、緊急事態宣言下において子どもたちの就寝時間やスクリーンタイムなどに影響があったこと、緊急事態宣言が解除され学校が再開された後でもその影響が残存していることが示唆された。一方、コロナ禍における子どもたちの栄養や食生活に関する調査は国内外ともに前例がなく、支援の必要性や内容を検討するためにも早急な実態把握が必要と考えられた。

本研究は、「コロナ×子どもアンケート」の基盤において子どもたちの栄養や食生活の実態を調査することを目的としている。

B. 研究方法

「小学1年生～高校3年生（相当）の子ども」および「0歳～高校3年生（相当）のこどもの保護者（20歳以上）」を対象とした

無記名ウェブ調査。メディアや自治体等を通して全国の対象者を広くリクルートした。説明・同意（こどもの場合は代諾も含む）・回答はすべてオンラインで実施した。こころの健康など多岐に渡る質問の中に、栄養・食生活に関する質問4問を追加した。

給食については、小学生から高校生（相当）までのこどもの保護者を対象とし、(1)「コロナによる休校後に登校が再開されてから、（分散登校や短縮授業などの理由で）学校給食が提供されなかった時期はありましたか？」、(2)「（分散登校・短縮授業などの理由で）学校で「簡易給食」が提供されていた時期はありましたか？」に対して、各々「なかった・あったが1ヶ月未満だった・1ヶ月以上あった・もともと弁当持参あるいは登校していない・分からない／答えたくない」から単一選択で回答いただいた。

食生活については、小学生から高校生（相当）までのこどもの保護者を対象に、(3)「2020年1月（コロナ前）と比べて、お子さまの食事について変わったこととして、あてはまるものをすべて選んでください。」として、「間食（おやつ）の機会や量が増え

た・欠食（朝昼夜のいずれかの食事を抜くこと）が増えた・食事をとる時刻が不規則になった・間食が増えたため食事量が減った・運動量が減ったため食事量が減った・疲労が増えたため食事量が減った・どれにもあてはまらない] からあてはまるものをすべて（1つ以上）選んで回答いただいた。

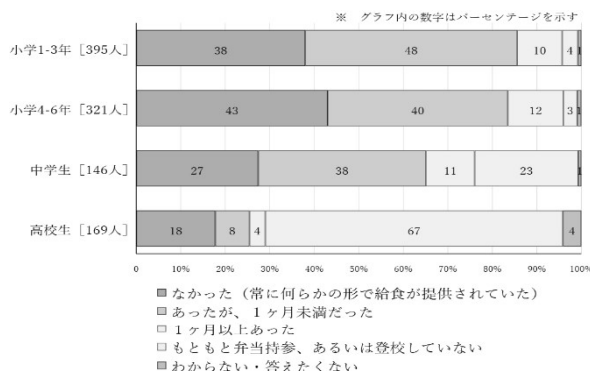
また、全年齢のこどもの保護者を対象に、(4)「2020年1月と比べて、あなたや家族の食事の準備について変わったこととして、あてはまるものをすべて選んでください。」として、「食事をつくる時間の余裕が少なくなった・食事をつくる時間の余裕が増えた・食事をつくる心の余裕が少なくなった・食事をつくる心の余裕が増えた・食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった・どれにもあてはまらない] からあてはまるものをすべて（1つ以上）選んで回答いただいた。

3 学年ごと（0～2 歳児、3～5 歳児、小学 1～3 年生、小学 4～6 年生、中学生、高校生（相当））の 6 群に分け、各々の学年群ごとに各変数の集計を行った。

C. 研究結果

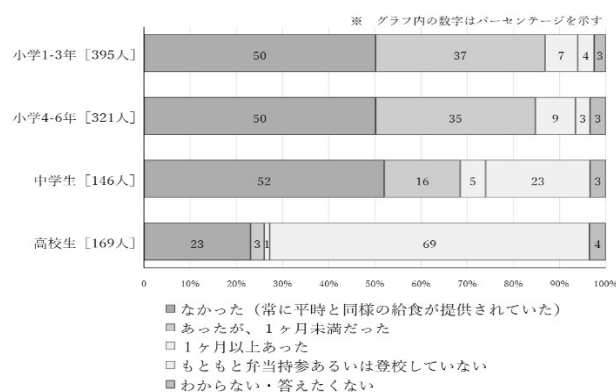
0～2 歳児の保護者 1,573 名、3～5 歳児の保護者 826 名、小学 1～3 年生の保護者 395 名、小学 4～6 年生の保護者 321 名、中学生の保護者 146 名、高校生の保護者 169 名、計 3,430 名（(1)～(3)については小学生以上の保護者計 1,031 名）が回答した。

1. 学校給食が提供されなかった期間



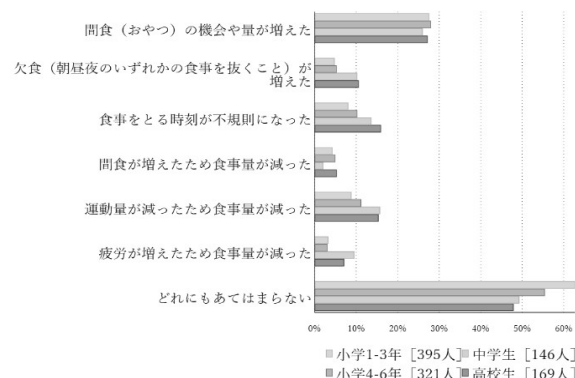
「もともと弁当持参、あるいは登校していない」「わからない・答えたくない」を除くと、「1ヶ月未満あった」が小学生で46%、中学生で50%、「1ヶ月以上あった」は小学生で12%、中学生で14%であった。

2. 簡易給食が提供された期間



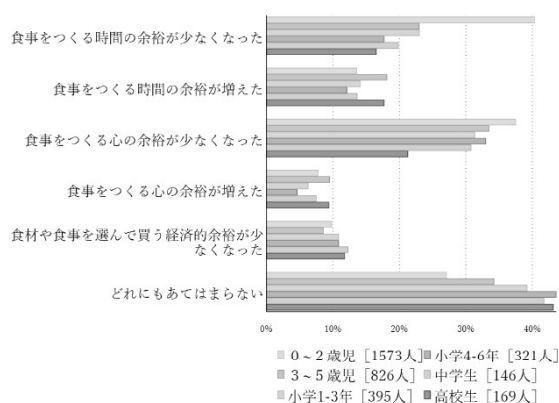
「もともと弁当持参、あるいは登校していない」「わからない・答えたくない」を除くと、「1ヶ月未満あった」が小学生で38%、中学生で22%、「1ヶ月以上あった」は小学生で8%、中学生で7%であった。

3. 食生活の変化



コロナ前と比較して「間食の機会や量が増えた」は小学生の28%、中高生の27%に、「食事をとる時刻が不規則になった」は小学生の9%、中高生の15%に、「運動量が減ったため食事量が減った」は小学生の10%、中高生の16%に、それぞれ見られた。

4. 食事準備負担の変化



3歳児以上の保護者では、コロナ前と比較して「(食事をつくる)心の余裕が少なくなった」が32%、反対に「心の余裕が増えた」が8%、また、「時間の余裕が少なくなった」は21%、反対に「時間の余裕が増えた」は16%であった。

全年齢の保護者で、コロナ前と比較して「食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった」と回答したのは、8%であった。

D. 考察

本調査の結果では、コロナ流行に伴う2020年春の緊急事態宣言以降、学校が再開されたにもかかわらず給食が提供されない時期があった小中学生が約6割にのぼった。学校給食が長期間提供されないことは、特に経済状況の悪い家庭や共働き家庭などでは、こどもの栄養摂取に直接的な影響を及ぼしかねない。

また、コロナ前と比較して間食の機会や量が増えたこどもが約3割にものぼった。間食機会や量の増加は、肥満や齲歯の増加にもつながりかねないため、特に注意が必要である。

保護者が食事を準備する負担については、時間の余裕が増えた保護者が一定数い

た一方で、心の余裕が少なくなった保護者が3割以上にのぼった。これまでの「コロナ×こどもアンケート」において、保護者のメンタルヘルスの問題も浮き彫りになってきており、保護者の心の余裕の少なさがこどもの食事の栄養バランスなどに影響する可能性も否めない。

本調査は、SNSなどを通じて回答者を募ったウェブ調査であり、回答者集団が日本の親子を代表していない可能性がある。特に、コロナ禍におけるこどもたちの生活や健康への影響について少なからず関心のある親子が参加している傾向があると考えられるため、結果の解釈には注意が必要である。

こどもの食生活には、就寝時間の後ろ倒しや外遊び機会の減少などに加え、親の仕事環境の変化やストレス状況なども影響しうる。これらの因子を加味したより詳細な分析・調査による実態把握とともに、間食増に対する注意喚起や、ハイリスク家庭への精神的・経済的支援などを検討する必要がある。

E. 結論

コロナ禍において、こどもたちの食生活には間食が増えるなどの悪影響が出ている可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

2. 新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の食事と健康に関する実態調査の設計と実施

研究分担者 森崎菜穂 (所属：国立成育医療研究センター社会医学研究部)

研究協力者 Aurelie Piedvache (所属：国立成育医療研究センター社会医学研究部)

研究協力者 田中久子 (所属：国立成育医療研究センター社会医学研究部)

研究要旨

今般の新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）情勢により強いられた家庭内環境の変化や、休校・分散登校や新しい生活様式に合わせた学校給食提供体制の変更により、子どもの健康および栄養状態が悪化していることが危惧される。しかし、コロナによる子どもの栄養状態とその格差の変化の実態については、明らかになっていない。そこで、本研究班ではコロナ流行前後における子どもの栄養・食生活の状況の変化および要因を明らかにすることを目的に住民基本台帳に基づき抽出した集団における郵送による質問紙調査を実施した。

有効回答率が30%であることを想定して、発送数を3000とした。調査者の選定は、まず8地域区分（北海道・東北、関東、北陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）に基づき8つのブロックに分け、各ブロック内からそれぞれ6～7つの自治体、計50自治体が無作為に抽出し、各自治体の住民基本台帳から小学5年生の児童または中学2年生の生徒がいる世帯の住所を30世帯抽出し、これらに調査票一式を送付した。

発送数に対して調査票の回収数は保護者票が1551/3000(52%)、子ども票が1536/3000(51%)と予想より高かった。これには、回答者への事後謝品を用意したこと、リマインドハガキを送ったこと、新型コロナウイルス感染症に子どもの気になる症状に関するパンフレットを同封したこと、などが要因になったと考えられる。

A. 研究目的

今般の新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）情勢により強いられた家庭内環境の変化や、休校・分散登校や新しい生活様式に合わせた学校給食提供体制の変更により、子どもの健康および栄養状態が悪化していることが危惧される。子どもの食生活は家庭環境が大きく影響するが、保護者の抑うつ傾向や経済状況への不安、虐待行動の増

加は、長引くコロナ情勢下で改善を認めず、家庭環境の状況が子どもの食事状況に影響を与えている可能性が想定される。

一方、子どもの適切な栄養素摂取の担保に貢献していることが報告されている学校給食においても、休校措置に伴い数ヶ月にわたり提供されなかった上、授業数確保のために多くの学校で実施される夏季の授業時も給食提供が見送られている。子どもの

貧困対策としても機能している子ども食堂も感染症防止の影響により閉鎖される等、子どもの栄養・食生活を支える状況が大きく変化している。また、「新しい生活様式」の実践のため、現時点でも給食が平時より簡素な簡易給食となっている学校も一定数ある。このような学校給食の提供体制の変化による影響は、学校給食がない日の栄養格差は世帯収入で異なることが報告されていることから、貧困世帯など一部の家庭でより強い格差を生むことが危惧される。

しかし、コロナによる子どもの栄養状態とその格差の変化の実態については、明らかになっていない。そこで、本研究班ではコロナ流行前後における子どもの栄養・食生活の状況の変化および要因を明らかにすることを目的に住民基本台帳に基づき抽出した集団における郵送による質問紙調査を実施した。

B. 研究方法

1. 対象世帯・対象者の選定

有効回答率が30%であることを想定して、発送数を3000とした。調査対象者の抽出は、2020年度の住民基本台帳に基づいて下記のとおり行った。（図1）

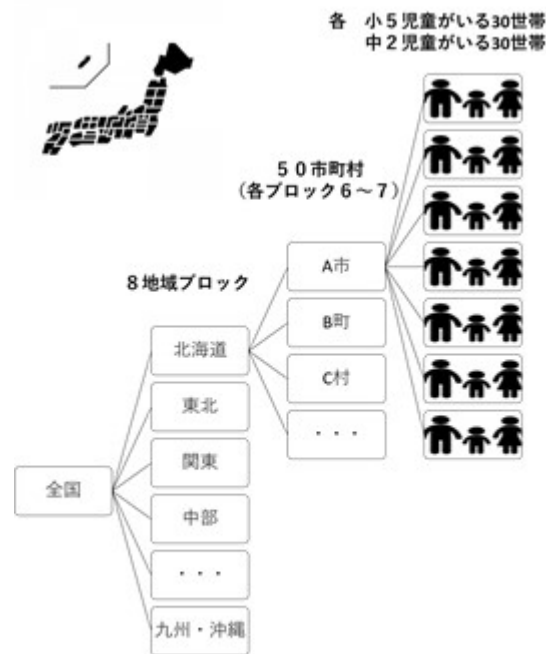


図1：全国小5・中2への生活影響調査の標本抽出方法

まず、全国を8地域区分（北海道・東北、関東、北陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）に基づき8つのブロックに分け、各ブロック内からそれぞれ6〜7つの自治体、計50自治体が無作為に抽出した。そして、各自治体に住民基本台帳の閲覧申請を行い、それぞれの台帳から小学5年生の児童または中学2年生の生徒がいる世帯を30世帯抽出した。最終的に抽出された自治体、およびそれぞれの自治体の11歳および14歳人口を表2に示す。

2. 調査票の発送回収

2020年12月に調査依頼文書（添付1）、調査票一式（添付2）を居住地に郵送し、回答期間は3週間とした。

調査票一式の発送1週間後にリマインドハガキを発送し、返答があった方に2021年

2月に謝礼を発送した。

(倫理面への配慮)

本研究は、国立成育医療研究センター倫理委員会(承認番号:2020-168)の承認を得て実施した。また、調査対象者の抽出、調査票および謝品の発送について調査会社に業務委託を行い、研究班は調査対象者の氏名・住所情報が含まれない研究情報のみを用いた。

C. 研究結果

調査票の回答数を表2に示す。

	中2	小5
発送数	1500	1500
保護者回答	748(50%)	803(54%)
子ども回答	742(49%)	794(53%)

回収率は保護者票が1551/3000(52%)、子ども票が1536/3000(51%)であった。

D. 考察

本研究では、住民基本台帳からの2層化無作為抽出法で全国調査を実施した。

本調査における対象者の選定では、まず自治体を選定し、次に各自治体から同じ人数を抽出する形の二段階抽出を行った。従来行われている人口分布に応じた対象者の抽出であると、複雑な統計学的処理を行わずとも単純集計で全国代表値を算出することができるが、一方で小さい自治体では対象者数が少なくなってしまうことから、地域差や地域要因に関連した解析は難しくなってしまう。一方で、本研究で行った方法では、全国推定値を算出するには、各自治体の人口等を考慮して各対象者の回答を重み付けして解析する必要があるが、一方で

地域差や地域要因に関連した解析には十分な検出力を維持しやすい。このため、今後コロナ情勢の影響の詳細な分析が可能となることが期待される。

また、本調査の回答率は、同様の公的調査の回答率から予想された33%を上回り、過半数に届いた。過去の研究¹⁾からも、事前ハガキ、リマインドハガキ、報酬があることはそれぞれ回収率向上に役立つことが知られており、本研究ではリマインドハガキと事後謝礼を準備したことが回収率向上に寄与した可能性がある。一方で、総額が同等であっても、粗品の事前謝礼(ペン等)のほうが事後謝礼よりも回答率が更に上昇することも報告されており、今後追跡調査を実施する際には事前謝礼を検討することが望ましい。

E. 結論

コロナ流行前後における子どもの栄養・食生活の状況の変化および要因を明らかにすることを目的に住民基本台帳に基づいた全国の代表性を担保できる研究を実施することができた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

(参考文献)

- 1) 萩原 剛, 太田 裕之, 藤井 聡, アンケート調査回収率に関する実験研究, 土木計画学研究・論文集, 2006, 23 巻, p. 117-123,

表1 調査対象の地点一覧表

地点 番号	市区町村 code	都道府県 名	市区町村名	地域	市区町村			
					総人口	11歳男女 人口	14歳男女 人口	
001	01110	北海道	札幌市清田区	1	北海道・東北	112,886	1,137	1,137
002	01229	北海道	富良野市	1	北海道・東北	21,275	165	165
003	03201	岩手県	盛岡市	1	北海道・東北	286,796	2,539	2,539
004	04202	宮城県	石巻市	1	北海道・東北	141,356	1,119	1,119
005	06201	山形県	山形市	1	北海道・東北	243,559	2,156	2,156
006	07207	福島県	須賀川市	1	北海道・東北	75,928	726	726
007	08201	茨城県	水戸市	2	関東	268,256	2,422	2,422
008	10204	群馬県	伊勢崎市	2	関東	200,210	1,918	1,918
009	11222	埼玉県	越谷市	2	関東	337,476	3,011	3,011
010	12213	千葉県	東金市	2	関東	56,676	456	456
011	13112	東京都	世田谷区	2	関東	894,452	6,876	6,876
012	13208	東京都	調布市	2	関東	232,230	1,893	1,893
013	14117	神奈川県	横浜市青葉区	2	関東	304,311	2,879	2,879
014	15103	新潟県	新潟市中央区	3	北陸甲信越	172,966	1,374	1,374
015	15213	新潟県	燕市	3	北陸甲信越	78,731	677	677
016	16206	富山県	滑川市	3	北陸甲信越	32,831	291	291
017	17212	石川県	野々市市	3	北陸甲信越	52,331	532	532
018	19209	山梨県	北杜市	3	北陸甲信越	46,055	347	347
019	20205	長野県	飯田市	3	北陸甲信越	98,401	911	911
020	22101	静岡県	静岡市葵区	4	中部	249,782	2,123	2,123
021	22212	静岡県	焼津市	4	中部	134,968	1,244	1,244
022	23114	愛知県	名古屋市緑区	4	中部	244,116	2,537	2,537
023	23207	愛知県	豊川市	4	中部	179,985	1,740	1,740
024	23228	愛知県	岩倉市	4	中部	45,417	382	382
025	24208	三重県	名張市	4	中部	77,308	682	682
026	26111	京都府	京都市西京区	5	近畿	146,654	1,338	1,338
027	27123	大阪府	大阪市淀川区	5	近畿	171,440	1,149	1,149
028	27207	大阪府	高槻市	5	近畿	348,139	3,192	3,192
029	27223	大阪府	門真市	5	近畿	118,332	920	920
030	28201	兵庫県	姫路市	5	近畿	524,460	4,983	4,983
031	28217	兵庫県	川西市	5	近畿	155,977	1,402	1,402
032	30206	和歌山県	田辺市	5	近畿	72,801	633	633
033	32202	島根県	浜田市	6	中国	52,704	418	418
034	33202	岡山県	倉敷市	6	中国	475,498	4,606	4,606
035	34102	広島県	広島市東区	6	中国	118,629	1,124	1,124
036	34202	広島県	呉市	6	中国	217,992	1,727	1,727
037	34212	広島県	東広島市	6	中国	180,852	1,845	1,845
038	35208	山口県	岩国市	6	中国	131,621	1,116	1,116
039	36341	徳島県	名西郡石井町	7	四国	25,558	220	220
040	37202	香川県	丸亀市	7	四国	110,745	1,072	1,072
041	37206	香川県	さぬき市	7	四国	47,668	375	375
042	38201	愛媛県	松山市	7	四国	507,786	4,591	4,591
043	38202	愛媛県	今治市	7	四国	154,844	1,288	1,288
044	39211	高知県	香南市	7	四国	33,055	289	289
045	40103	福岡県	北九州市若松区	8	九州・沖縄	81,430	747	747
046	40202	福岡県	大牟田市	8	九州・沖縄	112,813	896	896
047	40402	福岡県	鞍手郡鞍手町	8	九州・沖縄	15,652	127	127
048	43101	熊本県	熊本市中央区	8	九州・沖縄	174,851	1,472	1,472
049	44204	大分県	日田市	8	九州・沖縄	64,399	592	592
050	46215	鹿児島県	薩摩川内市	8	九州・沖縄	93,984	913	913

添付 1

保護者のみなさまへ

2020年12月

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 社会医学研究部 ライフコース疫学研究室
室長 森崎菜穂

「新型コロナウイルス感染症流行期前後における親子の食事と健康に関する実態調査」 ご協力をお願い



拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たちは、国内唯一のこども専門の国立高度専門医療研究センターである国立成育医療研究センターの小児科医・管理栄養士・心理士などの研究グループです。これまで、「コロナ×こども本部」として、新型コロナウイルス感染症（コロナ）の流行が子どもたちや保護者さまに与えた生活環境やそれに伴う心身の健康状態の変化の現状を調べ、子どもたちと保護者さまの安全・安心につながるような具体的な情報を発信してきました。

この度、厚生労働省からの委託を受け、コロナ情勢による家庭内外での環境の変化が、子どもたちへの食生活や健康に与える影響を調べる全国調査を実施することとなりました。（厚生労働科学研究「新型コロナウイルス感染症流行期前後における親子の栄養・食生活の変化およびその要因の解明のための研究」研究代表者：森崎菜穂）調査結果は、子どもの栄養・食生活の質を保障するための社会基盤の整備のための基礎資料となります。

みなさまには、**一般住民の代表**として本研究にご参加いただきたく、各自治体の定める住民基本台帳閲覧の手続きを経て許可を受け、無作為に選ばせていただいた、小学5年生または中学2年生のお子さまがいらっしゃる全国3,000世帯にこのお願い状をお送りしております。

本研究の趣旨と意義にご賛同をいただき、12月25日（金）までに調査票をご投函いただきました方には、御礼として **QUOカード（保護者さま用アンケートおよびお子さま用アンケート両方に回答くださった方：600円、どちらか一方に回答くださった方：300円）を進呈いたします**（2月下旬発送予定）。

ご多用の中誠に恐縮ですが、私どもの研究にご参加いただけますことを心よりお待ち申し上げます。

敬具

【ご送付書類の内容】

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. ご協力のお願（本状） | 4. 返信用封筒 : 1枚 |
| 2. 保護者さま用アンケート用紙 : 1部 | 5. コロナ×こども本部 パンフレット : 1部 |
| 3. お子さま用アンケート用紙 : 1部 | (こどもの症状とその対処法・アドバイス) |

【アンケートのご回答をお願いしたい方】 宛名のお子さまと保護者さま(お子様の回答は確認しないで入れてください)

【アンケートご返送期限】 2020年12月25日（金）までにご回答の上、同封の封筒（切手不要）に入れて、ご投函ください（お子さま用・保護者さま用のアンケートはともに1つの封筒に入れてください）。

【研究主体】 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

研究代表：社会医学研究部 ライフコース疫学研究室室長 森崎菜穂
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
お問い合わせ先：kodomu_nutr@ncchd.go.jp



※研究への参加をご希望なさらない方、参加の条件に該当しない方におかれましては、お手数をおかけし大変恐縮ですが、ご送付書類を破棄していただきますようお願い申し上げます。

※アンケートは無記名です。結果は、「〇〇という回答が△△%」というようにすべて統計的数字にまとめます。

またご回答内容を研究以外の目的に利用することは決してございません。

※本研究に関わる書類封入・発出・データ入力・謝礼発送は、調査機関である株式会社日本リサーチセンター（本社：東京都墨田区 <https://www.nrc.co.jp/>）に委託して実施しています。

コロナ×こども本部の
ホームページを
ご覧いただけます

2020年12月

あて名のお子さまへ

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 社会医学研究部 ライフコース疫学研究室
室長 森崎菜穂

「新型コロナウイルス感染症流行期前後における親子の食事と健康に関する実態調査」 ご協力のお願い



はじめまして。今日は、みなさんにアンケートご協力のお願いがあり、お手紙をお送りしました。

私たちは国のこども専門の病院・研究所で働いている、小児科医などの集まりです。「コロナ×こども本部」としてコロナの流行が子どもたちや保護者の方の生活、こころや体にどのような影響を与えているかを調べ、みなさんの安全・安心につながる情報をいままでもたくさん発信してきました。そのなかで、日本の政府から、子どもたちの未来をよくするために国が何をできるかを考えるために、コロナが子どもたちの食事や健康にどのような影響を与えているかを調べてほしいと、依頼されました。

そこで、全国3,000のご家庭に、このアンケートをお願いしています。みなさんは全国の小学5年生・中学2年生の代表として、くじ引きのような方法で選ばれました。このアンケートにご協力いただける方は、12月25日（金）までにアンケートを書いて送ってください。

アンケートには自分自身の考えを自由に書いてください。また、保護者の方にどう書くかを相談したり見せたりする必要はありません。

アンケートを送ってくださった方には2月後半ごろにささやかなお礼を郵便でお届けする予定です。

【この封筒に入っているもの】

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. ご協力のお願い（この用紙） | 4. 返信用の封筒 : 1枚 |
| 2. 保護者の方用アンケート用紙 : 1部 | 5. コロナ×こども本部 パンフレット : 1部 |
| 3. お子さま用アンケート用紙 : 1部 | （こどもの症状とその対処法・アドバイス） |

【アンケートに答えてほしい人】 あて名のお子さまと、その保護者の方

【アンケートの送り方】 2020年12月25日（金）までに、封筒（切手はいりません）に入れて、郵便で送ってください（アンケートは、自分と保護者の方の両方、1つの封筒に入れてください）。

【研究主体】

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
研究代表：社会医学研究部 ライフコース疫学研究室室長 森崎菜穂
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
お問い合わせ先：kodomo_nutr@ncchd.go.jp

※アンケートに答えたくない人は、この紙は捨ててください。

※アンケートには名前を書かずに送っていただきます。結果は「〇〇という答えが△△%」というようにすべて数字にまとめますので、あなたがどう答えたのかがそのままわかるかたちで発表されることはありません。

※株式会社日本リサーチセンター（本社：東京都墨田区 <https://www.nrc.co.jp/>）というアンケート専門の会社が研究のお手伝いをしています。



コロナ×こども本部の
ホームページです

添付2

保護者さま用アンケート用紙

新型コロナウイルス感染症流行期前後における 親子の食事と健康に関する実態調査

ご記入にあたっての注意

- * このアンケートは、全国の小学5年生・中学2年生のお子さまから無作為に選ばれた3,000世帯のご家庭に配られています。
- * このアンケート用紙は、封筒の宛名のお子さまの保護者の方がお答えください。ご家庭でのお子さまの食事について多く伺っているため、なるべくお子さまの食事を主に用意されている方にご回答をお願いします。
- * ご回答は、質問番号の順番に、鉛筆か、黒または青のボールペンで、回答の番号に○をつけるか、()や囲みの中に数字をご記入ください。
- * アンケートの「お子さま」とは、いずれも、封筒の宛名のお子さまのことをさしています。
- * お答えになりたくない質問には、「答えたくない」の選択肢をお選びください。
- * この調査は無記名です。お名前をお書きいただく必要はありません。
- * 調査への協力は任意であり、協力しなかったことで不利益を被ることはありません。アンケート調査への回答および用紙の提出によって、本研究への協力について、あなた（保護者さま）およびお子さまが同意したこととみなさせていただきます。
- * ご協力謝礼としまして、保護者さま用のアンケートおよび子どもさま用のアンケートの両方に回答くださった方全員にクオカード600円分、どちらか一方に回答くださった方全員にクオカード300円分を進呈します（2月下旬頃発送予定）。
- * 最後の質問までご回答が終わりましたら、お子さま用アンケートと一緒に、同封の返信用封筒に入れてご返送ください（切手不要）。

本調査は、厚生労働科学研究「新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化及びその要因の解明のための研究」に基づいて、新型コロナウイルス感染症情勢が子どもたちへの食生活や健康に与えている影響を調べるために、国立成育医療研究センターが研究を実施しております。本調査の郵送は調査会社に委託し行われているため、本調査データがあなたの住所情報と紐づけられることはありません。

本アンケートは、個人のプライバシーの保護については十分配慮した研究スタッフのもとで厳重に保管されます。個人の回答が公表されることはありません。

<本研究の問い合わせ先>

研究責任者：国立成育医療研究センター 社会医学研究部 室長 森崎菜穂
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
e-mail : kodomo_nutr@ncchd.go.jp

問1 あなたはお子さまの食事を主に用意されている方ですか。(あてはまる番号1つに○)

1 はい	2 いいえ	→	なるべくお子さまの食事を主に用意されている方と一っしょにご回答をお願いします。
------	-------	---	---

問2 お子さまから見たあなたの続き柄は次のどれですか。(あてはまる番号1つに○)

1 母親	2 父親	3 祖母	4 祖父	5 兄弟姉妹	6 その他
------	------	------	------	--------	-------

問3 あなたの年齢はいくつですか。(あてはまる番号1つに○)

1 24歳以下	2 25-34歳	3 35-44歳	4 45-54歳	5 55-64歳	6 65歳以上
---------	----------	----------	----------	----------	---------

問4 お宅さまで、お子さまと家計をともにしている方をすべてお知らせください。
(単身赴任の方など、現在同居なさっていない方も含めてお答えください。)
(あてはまる番号すべてに○) 3、4、5はそれぞれの人数も教えてください。

1 お子さまの母親	3 お子さまの祖父母	→ (人数:) 人)
2 お子さまの父親	4 お子さまの兄弟姉妹	→ (人数:) 人)
	5 お子さまの親戚・その他	→ (人数:) 人)

問5 緊急事態措置期間(2020年4月16日~5月13日)についてお答えください。
お子さまは学校に登校されましたか(オンライン授業など、家庭で学習した場合は含まないでください)。(あてはまる番号1つに○)

1 休校・オンライン授業だったため(ほとんど)登校しなかった
2 開校していたが、コロナのために(ほとんど)登校を自粛した
3 別の理由で(ほとんど)登校しなかった
4 ほぼ毎日登校した

問6 お子さまの給食状況についてお伺いします。分散登校、短縮授業などのため給食が提供されない期間・簡易給食が提供された期間はありましたか。(あてはまる番号すべてに○) あった場合はその期間も教えてください。

1 登校再開後は例年通りに給食が提供された
2 登校再開後も給食が提供されない期間があった→() 週間
3 簡易給食の期間があった→() 週間
4 もともと給食はない(弁当持参、学食利用等)、登校していない

問7 お子さまの現在のおおよその体格を教えてください。(数値を記入)

身長 . cm 体重 . kg

測定時期 西暦 2 0 年 月

ここからは、ご家庭でのお子さまの食事について伺います。

問8 この1ヶ月を思い返してください。

ご家庭で、お子さまは次の食品を少なくとも1日に1回は食べていましたか。
1日に1回は食べているものすべてに○をつけてください。
(あてはまる番号すべてに○)

1 乳製品(牛乳、ヨーグルト、チーズなど)	3 野菜	5 いずれも、
2 肉、魚、卵	4 果物	毎日食べていない

問9 緊急事態措置期間(2020年4月16日~5月13日)を思い出してください。

ご家庭で、お子さまは次の食品を1日に2回は食べていましたか。1日に2回は食べていたものすべてに○をつけてください。(あてはまる番号すべてに○)

1 乳製品(牛乳、ヨーグルト、チーズなど)	3 野菜	5 いずれも、
2 肉、魚、卵	4 果物	毎日食べていない

問10 昨年(2019年12月)を思い出してください。ご家庭で、お子さまが少なくとも1日に1回は食べていたものに○をつけてください。(あてはまる番号すべてに○)

1 乳製品(牛乳、ヨーグルト、チーズなど)	3 野菜	5 いずれも、
2 肉、魚、卵	4 果物	毎日食べていない

問11 昨年(2019年12月)と比べて、お子さまの食事について変わったこととして、あてはまるものをすべて選んでください。(あてはまる番号すべてに○)

1 間食(おやつ)の機会や量が増えた
2 欠食(朝昼夜のいずれかの食事を抜くこと)が増えた
3 食事をとる時刻が不規則になった
4 間食が増えたため食事量が減った
5 いずれにもあてはまらない

問12 昨年(2019年12月)と比べて、お子さまの食事について変わったこととして、あてはまるものをすべて選んでください。(あてはまる番号すべてに○)

1 食事をつくる時間の余裕が少なくなった
2 食事をつくる時間の余裕が増えた
3 食事をつくる心の余裕が少なくなった
4 食事をつくる心の余裕が増えた
5 食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった
6 いずれもあてはまらない

問13、問14は現在と以前の食事についてお聞きます。
 この1ヶ月、緊急事態措置期間（2020年4月16日～5月13日）、昨年（2019年）12月のそれぞれについてお答えください。

問13 お子さまが、ご家庭で、下記の食べ物や飲み物を口にするのは、週に何日ありますか。（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

	この1ヶ月				緊急事態措置期間 (2020年4月16日～5月13日)				昨年12月 (2019年12月)			
	ほとんど毎日	週に4～5回	週に2～3回	ほとんどない	ほとんど毎日	週に4～5回	週に2～3回	ほとんどない	ほとんど毎日	週に4～5回	週に2～3回	ほとんどない
インスタント食品 (カップ麺、レトルト食品など)	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
冷凍食品	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
コンビニ・スーパー・デリバリー などで購入した食事 (惣菜・弁当・おにぎり・サンドイッチ ・ハンバーガー・ピザ・菓子パンなど)	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
お菓子 (スナック菓子、菓子パン、アイスクリーム、 ケーキ、クッキー、飴など)	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
炭酸飲料・ジュースなど 甘い飲み物	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4

問14 あなたのお子さまが、朝食、昼食、夕食それぞれの食事で、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせることは、週に何日ありますか。（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

	この1ヶ月				緊急事態措置期間 (2020年4月16日～5月13日)				昨年12月 (2019年12月)			
	ほとんど毎日	週に4～5回	週に2～3回	ほとんどない	ほとんど毎日	週に4～5回	週に2～3回	ほとんどない	ほとんど毎日	週に4～5回	週に2～3回	ほとんどない
朝食	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
昼食 ※給食があるときは、給食を1回と 数えてください。	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
夕食	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4

ここからは、あなたご自身についてお伺いします。

問15 以下の項目について、それぞれあなたのお考え・お気持ちにもっともあてはまると思う選択肢をお選びください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない
1) 5つ以上の生の食材を用いて、子どもの食事を一食分作ることは、難しい	1	2	3	4	5
2) 子どものために、栄養バランスのとれた食事を作ることは、難しい	1	2	3	4	5
3) 子どものために、主食・主菜・副菜がそろった食事を用意することは、惣菜を利用しても難しい	1	2	3	4	5
4) 子どもの成長のために、栄養バランスのとれた食事は重要だ	1	2	3	4	5

	全くわからない	少しわかる	どちらとも言えない	わかる	よくわかる
5) 栄養バランスのとれた食事とはどのような食事か、わかる	1	2	3	4	5
6) 主食、主菜、副菜とは、それぞれどのような料理か、わかる	1	2	3	4	5

	全くない	たまにそうしている	ときどきそうしている	たいていそうしている	いつもそうしている
7) 値段が高いことを理由に、野菜・果物などを買う量を減らすことはある	1	2	3	4	5
8) 子どもの食事について、主食・主菜・副菜をそろえて食べさせようと思う	1	2	3	4	5
9) 子どもの食事の準備をする際は、その前後の食事は何を食べたか、あるいは食べる予定かを考慮している	1	2	3	4	5

問16 現在の家庭の暮らし（経済状況）について、一番近いものをお知らせください。(あてはまる番号1つに○)

1 大変苦しい	3 ふつう	4 ややゆとりがある
2 やや苦しい		5 大変ゆとりがある
		6 答えたくない

問17 現在の家庭の暮らし（経済状況）は、2019年12月時点と比べて、いかがですか。
（あてはまる番号1つに○）

1 今の方が苦しい	2 変わらない	3 今の方が楽	4 わからない ・答えたくない
-----------	---------	---------	--------------------

問18 ご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、家族が必要とする食料を買えない
ことがありましたか。（あてはまる番号1つに○）

1 よくあった	2 ときどきあった	3 まれにあった	4 全くなかった
---------	-----------	----------	----------

問19 緊急事態措置期間（2020年4月16日～5月13日）に、以下の食物の入手しやす
さは、それまでと比べて変わりましたか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	な し 入 手 手 た や す く	か 変 っ た わ ら な な	な し 入 手 手 た に く く
生鮮食品	1	2	3
インスタント食品	1	2	3
コンビニ・スーパー・デリバリーなどで購入した食事 （惣菜・弁当・おにぎり・サンドイッチ・ハンバーガー・ピザ・菓子パンなど）	1	2	3

問20 ここ1年、あなたは、「子ども食堂」を利用したいと思ったことはありましたか。
（あてはまる番号全てに○）

1 「子ども食堂」が近所がない、あるいはよく知らない
2 「子ども食堂」が近所にあると知っているが、使いたいと思ったことはない
3 「子ども食堂」を使ったことがある
4 （使いたいと思った際に、）開いてなくて利用できなかったことがある
5 （使いたいと思った際に、）その他の理由で利用できなかったことがある

問21 お子さまのお母さまが最後に卒業した学校は次のどれですか。
（あてはまる番号1つに○）

1 中学校	2 高等学校	3 専門学校	4 短期大学
5 大学・大学院	6 母親はいない・わからない・答えたくない		

問22 お子さまのお父さまが最後に卒業した学校は次のどれですか。
（あてはまる番号1つに○）

1 中学校	2 高等学校	3 専門学校	4 短期大学
5 大学・大学院	6 父親はいない・わからない・答えたくない		

問23 あなたのご家族の過去1年間の年間収入（勤労収入、自営業等の事業収入、農業収入、不動産収入、利子・配当金、ボーナス、年金を含め、税込）に一番近いものはどれですか。家計を一緒にしている方全員の収入を合算して、お答えください。
（あてはまる番号1つに○）

1	100万円未満	6	500万円～600万円未満
2	100万円～200万円未満	7	600万円～700万円未満
3	200万円～300万円未満	8	700万円～800万円未満
4	300万円～400万円未満	9	800万円～1,000万円未満
5	400万円～500万円未満	10	1,000万円以上
		11	答えたくない

問24 あなたとお子さまのかかわりについてお聞きします。
過去1ヶ月の間に次のことはどの程度ありましたでしょうか。
（あてはまる番号1つに○）

	い 全 く し て い な い	少 し し て い た け	と き ど き し て い た	し て い たい	い つ も し て い た
なるべく、何でも子どもに分かる言葉で説明するように心がけている	1	2	3	4	5
子どもが表現した気持ちに、「そうだね、～の気持ちが出たんだね」などと、気持ちを否定せずに共感する機会を作っていた	1	2	3	4	5
子どものこれからのこと（学校や生活のことなど）について、家族で一緒に話し合うようにしていた	1	2	3	4	5

問25 この1ヶ月間に、あなたやご家族のおとなが、お子さまに対して、次のようなことをしたことがありましたか。（あてはまる番号1つに○）

ア) たたいた	1 はい	2 いいえ	3 答えたくない
イ) ののしったり、おどしたりした	1 はい	2 いいえ	3 答えたくない
ウ) 感情的に怒鳴った	1 はい	2 いいえ	3 答えたくない

問26 上の問25のア・イ・ウの頻度は、2020年1月時点と比べて、全体的に増えましたか、減りましたか。（あてはまる番号1つに○）

1 とても増えた	2 少し増えた	3 変わらない	4 少し減った
5 とても減った	6 以前も、今も、問25のア・イ・ウのようなことはない	7 答えたくない	

問27 あなたについてお聞きします。

過去1ヶ月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あてはまる いつも	あてはまる たいてい	あてはまる ときどき	あてはまる 少しだけ	全くあてはま らない
1) 神経過敏に 感じましたか	1	2	3	4	5
2) 絶望的だと 感じましたか	1	2	3	4	5
3) そわそわしたり、落ち着きなく 感じましたか	1	2	3	4	5
4) 気分が沈み込んで、何が起ころしても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
5) 何をするのも 骨折りだと 感じましたか	1	2	3	4	5
6) 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5
7) あなた自身の セルフケアや ストレス対処の 方法を 大事にしていたか	1	2	3	4	5
8) 近いと感じる人・信頼できる人と、望む程度の 連絡をとっていましたか	1	2	3	4	5

保護者さまへのアンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。

お子さま用アンケート用紙

新型コロナウイルス感染症流行期前後における 親子の食事と健康に関する実態調査

お願い

- * これは、新型コロナウイルス感染症が、子どもたちの食事や健康にどのような影響を与えているかを調べるためのアンケートです。
- * 全国の小学5年生・中学2年生の方から、くじびきのような方法で選ばれた人に配られています。
- * アンケートは、自分で書いてください。おうちの方に見せる必要はありません。
- * 自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。
- * 名前は書かないでください。
- * 答えは、えんぴつを使ってあてはまる番号に○をつけてください。
(例) 問 あなたは男の子ですか、女の子ですか

① 男	2 女	3 答えたくない
-----	-----	----------
- * ○のつけた後は、質問文の終わりに「あてはまる番号1つに○」や「あてはまる番号すべてに○」などと書いてありますので、それにしてください。
- * 全部書き終わったアンケート用紙は、おうちの方のアンケート用紙と一緒に、返信用の封筒に入れて郵便で送ってください(切手は要りません)。

この調査は、厚生労働省の研究として、国立成育医療研究センターが実施しています。調査に関して聞きたいこと、言いたいことなどは、以下までお願いします。

<本研究の問い合わせ先>

研究責任者：国立成育医療研究センター 社会医学研究部 室長 森崎菜穂
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
e-mail : kodomo_nutr@ncchd.go.jp

K

問1 あなたは男の子ですか、女の子ですか？（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|-----|-----|----------|
| 1 男 | 2 女 | 3 答えたくない |
|-----|-----|----------|

問2 あなたは学校がある日はいつも朝ごはんを食べますか？（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 いつも食べない | 4 いつも食べる（週に5日） |
| 2 食べない日が多い（週1-2日食べる） | 5 答えたくない |
| 3 食べる日が多い（週3-4日食べる） | 6 学校に行っていない |

問3 朝ごはんを食べないとき、その理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 いつも食べないから | 5 ほかの理由 |
| 2 用意されていないから | 6 答えたくない |
| 3 おなか为空いてないから | 7 朝ごはんを食べなかったことはない |
| 4 時間がないから | （いつも食べている） |

緊急事態宣言が出ていた期間（2020年4月16日から5月13日）を思い出して、

問4から問7をお答えください。

問4 このあいだ、お昼ごはんを主にどうしていましたか？（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 家にいたけれど食べなかった | 4 給食・弁当などを学校で食べていた |
| 2 家で食べた（ひとりで食べた） | 5 その他・答えたくない |
| 3 家で食べた（家族と食べた） | |

問5 このあいだ、お昼ごはンは、毎日食べていましたか？（あてはまる番号1つに○）

- | |
|------------------------|
| 1 いつも食べなかった |
| 2 食べない日が多かった（週1～3日食べた） |
| 3 食べる日が多かった（週4～6日食べた） |
| 4 いつも食べた（週に7日食べた） |
| 5 答えたくない |

問6 お昼ごはんを食べないとき、その理由は何でしたか？（あてはまる番号すべてに○）

- | |
|-------------------------------|
| 1 用意されていないから |
| 2 一緒に食べるひとがないから |
| 3 朝ごはんを食べたのが遅く、まだお腹がすいていないから |
| 4 お菓子など間食したから、まだお腹がすいていないから |
| 5 ほかの理由 |
| 6 答えたくない |
| 7 お昼ごはんを食べなかったことはない（いつも食べていた） |

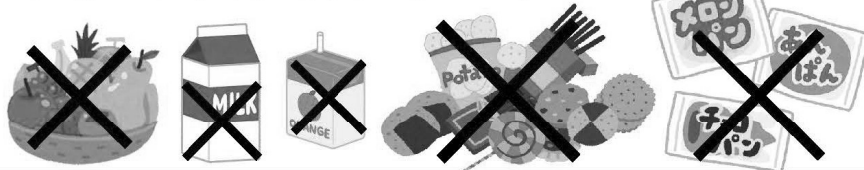


副菜(ふくさい)
 野菜(やさい)、いも、海藻(かいそう)、きのこを使った料理(りょうり)や味噌汁(みそじる)、スープなどの汁物(じるもの)です。

主食(しゅしょく)
 ごはん、パン、シリアル、めん類(るい)などです。

主菜(しゅさい)
 魚(さかな)、肉(にく)、卵(たまご)、豆製品(まめせいひん)、乳製品(にゅうせいひん)を使った料理(りょうり)などです。

*果物(くだもの)、牛乳(ぎゅうにゅう)やジュースなどの飲み物、お菓子(菓子パン)は、主食、主菜、副菜には含まれません。



上の絵を参考にお答えください。
 あなたのおうちでの食事の内容についておうかがいします。

問7 この期間、お昼ごはんには、主にどのようなものが入っていましたか。
 食卓に並んでいても、残したものは食べたものには入れません。最もあてはまるものを選んでください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------------|--|
| 1 主食だけ | 5 主食と副菜のりょうほう |
| 2 主菜だけ | 6 主食、主菜、副菜のいずれも |
| 3 副菜だけ | 7 その他 (お昼は食べないことが多い、果物のみ、飲み物のみ、お菓子のみ、など) |
| 4 主食と主菜のりょうほう | |

問8 今の生活を考えてください。コロナによって、いろいろな生活の変化があると思います。コロナによる生活の変化について、あなたの家族や学校の先生はどうしていますか？（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

コロナによる <u>おうちでの生活の変化</u> について、 <u>家族</u> は…	全くしてくれない	少ししてくれない	ときどきしてくる	たいていしてくる	いつもしてくる
私の考えを話せるように、質問したり確かめたりしてくれる	1	2	3	4	5
考えや気持ちを伝えたとき、それを取り入れようとしてくれる	1	2	3	4	5

コロナによる <u>学校での生活の変化</u> について、 <u>先生</u> たちは…	全くしてくれない	少ししてくれない	ときどきしてくる	たいていしてくる	いつもしてくる
私の考えを話せるように、質問したり確かめたりしてくれる	1	2	3	4	5
考えや気持ちを伝えたとき、それを取り入れようとしてくれる	1	2	3	4	5

問9 この2週間、次のような問題にどのくらい頻繁に悩まされていますか？あなたの気持ちにもっとも近いものを選んでください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	全くない	数日	半分以上	ほぼ毎日
物事に対してほとんど興味がなく、または楽しめない	1	2	3	4
気分が落ち込む、憂うつになる、または絶望的な気持ちになる	1	2	3	4
寝付きが悪い、途中で目がさめる、または逆に眠り過ぎる	1	2	3	4
疲れた感じがする、または気力がなく	1	2	3	4
あまり食欲がない、または食べ過ぎる	1	2	3	4
自分はダメな人間だ、人生の敗北者だと気に病む、または自分自身あるいは家族に申し訳がないと感じる	1	2	3	4
新聞を読む、またはテレビを見ることなどに集中することが難しい	1	2	3	4
他人が気づくぐらいに動きや話し方が遅くなる、あるいは反対に、そわそわしたり、落ちつかず、ふだんよりも動き回ることがある	1	2	3	4

つぎのページからは、あなたの1ヶ月間の食べ方について詳しく伺います。

もう少しです。あまり考えこまずに、最後までお答えください。最近、1か月間について考えてください。

焼肉・ステーキ グリル	ハンバーグ・カレー ラーメン・ソース など洋風の料理	揚げ物・てんぷら	和風の煮物・揚げ物・具 だんごの汁
<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上
<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回
<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回
<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回
<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回
<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満
<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった



さしみ・すし	焼き魚	魚を使った料理(いか・たこ・えび・貝も含む)	煮魚・鍋物・汁 物・具だんごの みそ汁	カツレツ・カツ ワイダー・ハンゼリー など	サブレットや栄養補助食品など 滋養強壮剤 (リポビタンDや ミン剤、鉄剤、カ ルシウムなど)
<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上
<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回
<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回
<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回
<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回
<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満
<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった

お肉 (牛肉や豚肉) の消費は	鶏肉の皮は	鶏足のスープ・ 汁を飲む量は	鶏類の味付け は外食に比べて	かき(柿)	いちご
<input type="checkbox"/> 好んで食べる	<input type="checkbox"/> 好んで食べる	<input type="checkbox"/> ほとんど全部	<input type="checkbox"/> 薄口	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上
<input type="checkbox"/> 食べるほう	<input type="checkbox"/> 食べるほう	<input type="checkbox"/> 空欄(はい)だけ	<input type="checkbox"/> 少し薄口	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回
<input type="checkbox"/> ふつ	<input type="checkbox"/> ふつ	<input type="checkbox"/> 半分くらい	<input type="checkbox"/> 同じくらい	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回
<input type="checkbox"/> 食べないほう	<input type="checkbox"/> 食べないほう	<input type="checkbox"/> 空欄(はい)	<input type="checkbox"/> 少し濃い口	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回
<input type="checkbox"/> 食べない	<input type="checkbox"/> 食べない	<input type="checkbox"/> ほとんど飲まない	<input type="checkbox"/> 濃い口	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回
			<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満
			<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった

ともだち 比べれば	よく噛む	いままでに飲 いたおとなの糖 を何本消費しま したか	最近、 食事習慣を 意識的に 変えましたか	現在、 医師、栄養士、 その他の専門家 の指導のもとで、食 事のコントロールを していますか
<input type="checkbox"/> かなり多い	<input type="checkbox"/> よく噛む	<input type="checkbox"/> 10本以上	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> はい
<input type="checkbox"/> やや多い	<input type="checkbox"/> よく噛むほど	<input type="checkbox"/> 6~9本	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> はい
<input type="checkbox"/> ふつ	<input type="checkbox"/> ふつ	<input type="checkbox"/> 3~5本	<input type="checkbox"/> 3年以上前	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> やや少ない	<input type="checkbox"/> あまり噛まないほう	<input type="checkbox"/> 1~2本	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
<input type="checkbox"/> かなり少ない	<input type="checkbox"/> あまり噛まない	<input type="checkbox"/> 1年以内	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> はい
		<input type="checkbox"/> したことがない	<input type="checkbox"/> いいえ	
		<input type="checkbox"/> わからない	<input type="checkbox"/> いいえ	

これで終わりです。おつかれさまでした。

小学生・中学生・高校生のための食事質問票

あなたの 最近1か月間の食べ方 をおしえてください。
小学生のみなさんは、かならず、お母さん・お父さん・おばあさん・おじいさんなど、
食事をともにすることの多いひとにきいてお答えください。



お答えいただくのに必要な時間は15分程度です。
【ご本人と保護者のかたへ】お答えいただいた内容は、食べ物と健康との関連を
明らかにし、子どもたちが健康な生活を送れるようにするための貴重な資料として
活用させていただきます。その場合、結果はあくまであなたのひとりごとの平均値など
の数値として公表されます。お子様個人がわかるような形で公表されることは絶
対にありません。

【書き方】太い黒のえんぴつを使ってください。まちがえた時は消しゴムで消して書きなおしてください。

数字を置く質問
右側で、下の記入例のように数字を
記入してください。
01123456789

悪例

良い例

番号1
番号2

この質問票に
おまじえを添えて
すべてにチェックを
してください。

自分
母親
父親
祖父母
その他のひと

この1か月前、
運動クラブ活動と、
それに近い運動は
ほとんど
ほぼ毎日
週4~6回
週2~3回
ほぼ毎日
しなかった

では、スタート!
あなたの食事・栄養の特徴を正しく計算するには、
「この質問票におもに答えるひと」以外はずべて必要
です。ご協力をお願いいたします。

最近、1か月間について考えてください。

アイスクリーム	ヨーグルト・ヨー グルトドリンク	チーズ	とり肉 (ひき肉をふくむ)	ふた肉・牛肉 (ひき肉をふくむ)	ラム・ソーセー ジ・ペレコン	レバー
<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上	<input type="checkbox"/> 毎日2回以上
<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回	<input type="checkbox"/> 毎日1回
<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回	<input type="checkbox"/> 週4~6回
<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回	<input type="checkbox"/> 週2~3回
<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回	<input type="checkbox"/> 週1回
<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満	<input type="checkbox"/> 週1回未満
<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった	<input type="checkbox"/> 食べなかった

あまり考えこまずに、だいたい考えてください。
食べなかったり、飲まなかった場合は、ここに V を記入してください。

あまり考えこまずに、だいたい目で答えてください。

最近1か月間について考えてください。

いかに、こえい貝	骨ごと食べる魚	ツナ缶	魚の干物・塩漬魚 (焼きさば、塩漬まじま、ふりにしんやなま、まぐろトロなど)	脂が乗った魚 (いわし、さば、さんま、ぶり、しんやなま、まぐろトロなど)	脂が少なめの魚 (さけ、ます、白身の魚、淡海水、かきおろし、ソーゼンなど)	魚の罐頭製品 (ちくわ、かまぼこ、魚ソーゼンなど)
毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった

たまご (黄の卵1個程度)	とうふ・厚揚げ	納豆	フライドポテト・ポテトチップス	その他のじゃがいも・芋・その他のいも	漬け物
毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった

生野菜(サラダ) レタス・キャベツ・千切りなど (トマトは除く)	緑の濃い葉野菜 (ほうれん草・小松菜など)	料理に使った野菜(漬け物・サラダ以外)	トマト
毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった

さのこ (すべての種類)	海藻 (けのりは除く)	海草子・おやつ	お菓子・おやつ	チョコレート
毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった

みかんなどの柑橘(かきつばつ類)	かきいちご・キウイ	その他のすべての果物(ジュース・ジャムは除く)	果糖
毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった

パン (おかず・菓子・菓子パンも含む)	バター	マーガリン	ジャム	マヨネーズをかける	ケチャップをかける	ソース・しょうゆをかける
毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった	毎日2回以上 毎日1回 週4~6回 週2~3回 週1回 週1回未満 食べなかった

家で飲んでいるお茶類の種類	白米	麦ごはん・胚芽米・玄米・雑穀米	平均的な1日に食べていたお茶類の合計(自分のお家で)	飲み物 (コップ、150ml程度を単位として)
種類が多岐にわたる場合はお茶類の数を記入してください。	8杯以上 7杯程度 6杯程度 5杯程度 4杯程度 3杯程度 2杯程度 1杯程度 食べなかった	8杯以上 7杯程度 6杯程度 5杯程度 4杯程度 3杯程度 2杯程度 1杯程度 食べなかった	8杯以上 7杯程度 6杯程度 5杯程度 4杯程度 3杯程度 2杯程度 1杯程度 食べなかった	ミネラルウォーター 水 低脂肪の牛乳 毎日4杯以上 毎日2~3杯 毎日1杯 週4~6杯 週2~3杯 週1杯 週1杯未満 食べなかった

ふつうの生乳(高脂肪も含む)	乳飲料(ヤブトなど)	お茶	紅茶・ウーロン茶	コーンジュース (100%以外のジュースは除く)	100%の動物性ジュース・野菜ジュース
毎日4杯以上 毎日3杯 毎日2杯 毎日1杯 週4~6杯 週2~3杯 週1杯 週1杯未満 食べなかった	毎日4杯以上 毎日3杯 毎日2杯 毎日1杯 週4~6杯 週2~3杯 週1杯 週1杯未満 食べなかった	毎日4杯以上 毎日3杯 毎日2杯 毎日1杯 週4~6杯 週2~3杯 週1杯 週1杯未満 食べなかった	毎日4杯以上 毎日3杯 毎日2杯 毎日1杯 週4~6杯 週2~3杯 週1杯 週1杯未満 食べなかった	毎日4杯以上 毎日3杯 毎日2杯 毎日1杯 週4~6杯 週2~3杯 週1杯 週1杯未満 食べなかった	毎日4杯以上 毎日3杯 毎日2杯 毎日1杯 週4~6杯 週2~3杯 週1杯 週1杯未満 食べなかった

お子さま用アンケート用紙

新型コロナウイルス感染症流行期前後における 親子の食事と健康に関する実態調査

お願い

- * これは、新型コロナウイルス感染症が、子どもたちの食事や健康にどのような影響を与えているかを調べるためのアンケートです。
- * 全国の小学5年生・中学2年生の方から、くじびきのような方法で選ばれた人に配られています。
- * アンケートは、自分で書いてください。おうちの方に見せる必要はありません。
- * 自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。
- * 名前は書かないでください。
- * 答えは、えんぴつを使ってあてはまる番号に○をつけてください。
(例) 問 あなたは男の子ですか、女の子ですか

① 男	2 女	3 答えたくない
-----	-----	----------
- * ○のつけた方は、質問文の終わりに「あてはまる番号1つに○」や「あてはまる番号すべてに○」などと書いてありますので、それにしてください。
- * 全部書き終わったアンケート用紙は、おうちの方のアンケート用紙と一緒に、返信用の封筒に入れて郵便で送ってください(切手は要りません)。

この調査は、厚生労働省の研究として、国立成育医療研究センターが実施しています。調査に関して聞きたいこと、言いたいことなどは、以下までお願いします。

<本研究の問い合わせ先>

研究責任者：国立成育医療研究センター 社会医学研究部 室長 森崎菜穂
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
e-mail : kodomo_nutr@ncchd.go.jp

G

問1 あなたは男の子ですか、女の子ですか？（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|-----|-----|----------|
| 1 男 | 2 女 | 3 答えたくない |
|-----|-----|----------|

問2 あなたは学校がある日はいつも朝ごはんを食べますか？（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 いつも食べない | 4 いつも食べる（週に5日） |
| 2 食べない日が多い（週1-2日食べる） | 5 答えたくない |
| 3 食べる日が多い（週3-4日食べる） | 6 学校に行っていない |

問3 朝ごはんを食べないとき、その理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 いつも食べないから | 5 ほかの理由 |
| 2 用意されていないから | 6 答えたくない |
| 3 おなかが空いてないから | 7 朝ごはんを食べなかったことはない |
| 4 時間がないから | (いつも食べている) |

緊急事態宣言が出ていた期間（2020年4月16日から5月13日）を思い出して、

問4から問7をお答えください。

問4 このあいだ、お昼ごはんを主にどうしていましたか？（あてはまる番号1つに○）

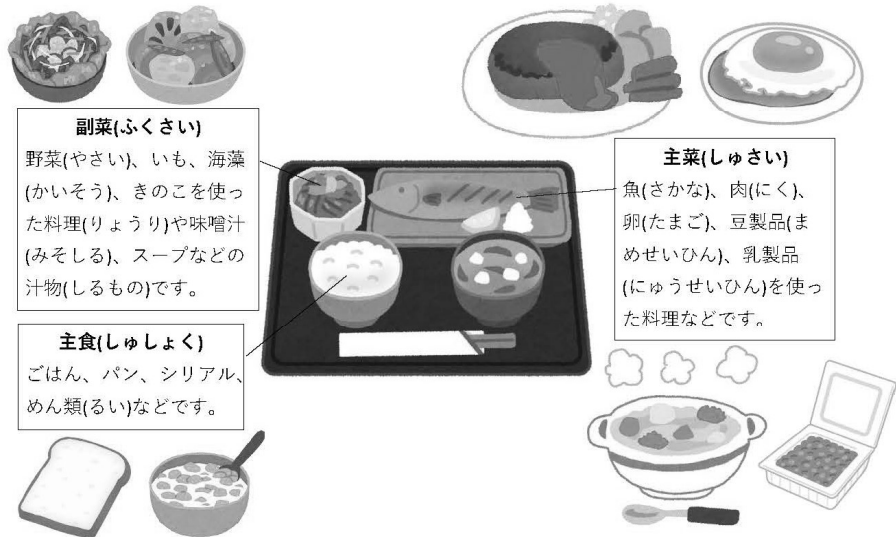
- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 家にいたけれど食べなかった | 4 給食・弁当などを学校で食べていた |
| 2 家で食べた（ひとりで食べた） | 5 その他・答えたくない |
| 3 家で食べた（家族と食べた） | |

問5 このあいだ、お昼ごはらは、毎日食べていましたか？（あてはまる番号1つに○）

- | |
|------------------------|
| 1 いつも食べなかった |
| 2 食べない日が多かった（週1～3日食べた） |
| 3 食べる日が多かった（週4～6日食べた） |
| 4 いつも食べた（週に7日食べた） |
| 5 答えたくない |

問6 お昼ごはんを食べないとき、その理由は何でしたか？（あてはまる番号すべてに○）

- | |
|-------------------------------|
| 1 用意されていないから |
| 2 一緒に食べるひとがないから |
| 3 朝ごはんを食べるのが遅く、まだお腹がすいていないから |
| 4 お菓子など間食したから、まだお腹がすいていないから |
| 5 ほかの理由 |
| 6 答えたくない |
| 7 お昼ごはんを食べなかったことはない（いつも食べていた） |

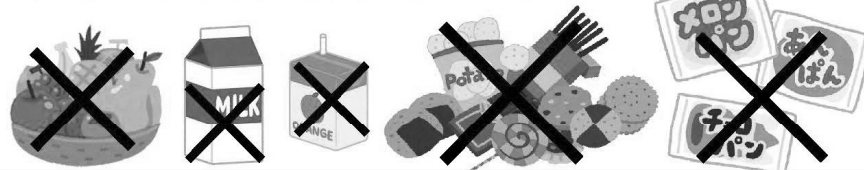


副菜(ふくさい)
 野菜(やさい)、いも、海藻(かいそう)、きのこを使った料理(りょうり)や味噌汁(みそじる)、スープなどの汁物(しるもの)です。

主食(しゅしょく)
 ごはん、パン、シリアル、めん類(るい)などです。

主菜(しゅさい)
 魚(さかな)、肉(にく)、卵(たまご)、豆製品(まめせいひん)、乳製品(にゅうせいひん)を使った料理(りょうり)などです。

*果物(くだもの)、牛乳(ぎゅうにゅう)やジュースなどの飲み物、お菓子(菓子パン)は、主食、主菜、副菜には含まれません。



上の絵を参考にお答えください。
 あなたのおうちでの食事の内容についておうかがいします。

問7 この期間、お昼ごはんには、主にどのようなものが入っていましたか。
 食卓に並んでいても、残したものは食べたものには入れません。最もあてはまるものを選んでください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------------|--|
| 1 主食だけ | 5 主食と副菜のりょうほう |
| 2 主菜だけ | 6 主食、主菜、副菜のいずれも |
| 3 副菜だけ | 7 その他 (お昼は食べないことが多い、果物のみ、飲み物のみ、お菓子のみ、など) |
| 4 主食と主菜のりょうほう | |

問8 今の生活を考えてください。コロナによって、いろいろな生活の変化があると思います。コロナによる生活の変化について、あなたの家族や学校の先生はどうしていますか？（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

コロナによる <u>おうちでの生活</u> の変化について、 <u>家族</u> は…	全くしてくれない	少ししてくれない	ときどきしてくれる	たいていしてくれる	いつもしてくれる
私の考えを話せるように、質問したり確かめたりしてくれる	1	2	3	4	5
考えや気持ちを伝えたとき、それを取り入れようとしてくれる	1	2	3	4	5

コロナによる <u>学校での生活</u> の変化について、 <u>先生</u> たちは…	全くしてくれない	少ししてくれない	ときどきしてくれる	たいていしてくれる	いつもしてくれる
私の考えを話せるように、質問したり確かめたりしてくれる	1	2	3	4	5
考えや気持ちを伝えたとき、それを取り入れようとしてくれる	1	2	3	4	5

問9 この2週間、次のような問題にどのくらい頻繁に悩まされていますか？あなたの気持ちにもっとも近いものを選んでください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	全くない	数日	半分以上	ほぼ毎日
物事に対してほとんど興味が無い、または楽しめない	1	2	3	4
気分が落ち込む、憂うつになる、または絶望的な気持ちになる	1	2	3	4
寝付きが悪い、途中で目がさめる、または逆に眠り過ぎる	1	2	3	4
疲れた感じがする、または気がない	1	2	3	4
あまり食欲がない、または食べ過ぎる	1	2	3	4
自分はダメな人間だ、人生の敗北者だと気に病む、または自分自身あるいは家族に申し訳がないと感じる	1	2	3	4
新聞を読む、またはテレビを見ることなどに集中することが難しい	1	2	3	4
他人が気づくぐらいに動きや話し方が遅くなる、あるいは反対に、そわそわしたり、落ちつかず、ふだんよりも動き回ることがある	1	2	3	4

これから、あなたの健康や生活のようすなどについてお聞きします。

1 項目ずつよく読んで、この1週間ぐらいのことを思い出して、あなたが自分にいちばんあてはまると思うものを選んでください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

問10 あなたの健康について聞かせてください。

この1週間…	ない	ぜんぜん	ない	ほとんど	ときどき	たいてい	いつも
1. 私は 病気だと思った。	1	2	3	4	5		
2. 私は あたまが痛かった、またはおなかが痛かった。	1	2	3	4	5		
3. 私は 疲れて ぐったりした。	1	2	3	4	5		
4. 私は 元気 いっぱいだった。	1	2	3	4	5		

問11 あなたはどんな気持ちですごしましたか。

この1週間…	ない	ぜんぜん	ない	ほとんど	ときどき	たいてい	いつも
5. 私は 楽しかったし、たくさん笑った。	1	2	3	4	5		
6. 私は つまらないなあと思った。	1	2	3	4	5		
7. 私は ひとりぼっちのような気がした。	1	2	3	4	5		
8. 私は なにもないのにこわい感じがした。	1	2	3	4	5		

問12 あなたは自分のことをどのように感じていましたか。

この1週間…	ない	ぜんぜん	ない	ほとんど	ときどき	たいてい	いつも
9. 私は 自分に自信があった(自分はよくやった)。	1	2	3	4	5		
10. 私は いろいろなことができるような気がした。	1	2	3	4	5		
11. 私は 自分に満足していた。(自分のことが好きだ)	1	2	3	4	5		
12. 私は いいことをたくさん思いついた。	1	2	3	4	5		

問13 あなたとあなたの家族について聞かせてください。

この1週間…	ない	ぜんぜん	ない	ほとんど	ときどき	たいてい	いつも
13. 私は親（お父さんまたはお母さん）と仲良くしていた	1	2	3	4	5		
14. 私は、家で気持ちよく過ごした	1	2	3	4	5		
15. 私たちは、家でけんかをした	1	2	3	4	5		
16. 私は、親（お父さんまたはお母さん）に、やりたいことをさせてもらえなかった	1	2	3	4	5		

問14 あなたと友達ちとの様子を聞かせてください。

この1週間…	ない	ぜんぜん	ない	ほとんど	ときどき	たいてい	いつも
17. 私は友達ちと一緒に遊んだ	1	2	3	4	5		
18. ほかの友達ちは私のことを好きだった (友達ちにきらわれていなかった)	1	2	3	4	5		
19. 私は、私の友達ちと仲良くしていた	1	2	3	4	5		
20. 私は他の子どもたちと比べて変わっているような気がした	1	2	3	4	5		

問15 学校での様子を聞かせてください。

この1週間…	ない	ぜんぜん	ない	ほとんど	ときどき	たいてい	いつも
21. 学校の勉強は簡単だった（よくわかった）	1	2	3	4	5		
22. 私は学校の授業が楽しかった	1	2	3	4	5		
23. 私は、自分の将来（これから先のこと）について心配した	1	2	3	4	5		
24. 私は、学校のテストで悪い点数をとらないか心配だった	1	2	3	4	5		

問16 この1ヶ月間、運動クラブ活動やそれに近い運動は…（あてはまる番号1つに○）

1 ほぼ毎日した	4 ほぼ週1回した
2 週4～6回した	5 しなかった
3 週2～3回した	

問17 以下のそれぞれの質問項目について、あてはまらない、まああてはまる、あてはまる、のいずれかのボックスに○をつけて下さい。答えに自信がなくても、あるいは質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えて下さい。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えて下さい。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
わたしは、他人に対して親切にしている。 わたしは他人の気持ちをよく考える。	1	2	3
わたしは、おちつきがなく、長い間じっとしていられない。	1	2	3
わたしは、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。	1	2	3
わたしは、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)。	1	2	3
わたしは、ひどくかっとなったり、よくかんしゃくをおこす。	1	2	3
わたしは、私はたいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶが、人と付き合うことを避ける。	1	2	3
わたしは、だいたいは言われたとおりにする。	1	2	3
わたしは、心配ごとが多く、いつも不安だ。	1	2	3
わたしは、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。	1	2	3
わたしは、いつもそわそわしたり、もじもじしている。	1	2	3
わたしは、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。	1	2	3
わたしは、よくけんかをする。相手を自分の思う通りにすることができる。	1	2	3
わたしは、おちこんでしずんでいたたり、涙ぐんだりすることがよくある。	1	2	3
わたしは、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。	1	2	3
わたしは、すぐに気が散りやすく、注意を集中できない。	1	2	3

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
わたしは、 ^{あた} ら ^ぼ め ^ん ^ち よ ^く め ^ん ^ふ ^あ ん ^じ ^し ^ん に直 ^じ 面 ^め すると不安 ^ふ ^あ んになり、自信 ^じ ^し ^ん をなくしやす ^い い。	1	2	3
わたしは、 ^{とし} ^{した} ^こ ^の ^た ^い ^に ^{たい} ^{して} ^や ^さ ^し ^く ^し ^て ^い ^る 。	1	2	3
わたしは、よくうそをついていると言 ^い ^わ ^れ ^た ^り 、 ごまか ^ま ^か ^し ^て ^い ^る と責 ^せ ^め ^ら ^れ ^た ^り ^す ^る 。	1	2	3
わたしは、 ^ほ ^か ^の ^こ ^ら ^い ^じ ^め ^ら ^れ ^た ^り 、 からかわ ^か ^わ ^れ ^た ^り ^す ^る 。	1	2	3
わたしは、 ^じ ^ぶ ^ん ^か ^ら ^す ^ず ^ん ^で ^よ ^く ^お ^て ^伝 ^い ^を ^す ^る (^お ^や ^せ ^ん ^{せい} ^の ^こ ^ら ^い ^ち ^ど ^も ^た ^ち ^な ^ど)。	1	2	3
わたしは、よく ^{かん} ^が ^を ^考 ^え ^て ^か ^ら ^行 ^動 ^す ^る 。	1	2	3
わたしは、 ^い ^え ^が ^っ ^こ ^う ^ほ ^か ^の ^と ^こ ^ろ ^か ^ら 、 ^じ ^ぶ ^ん ^の ^も ^の ^で ^は ^な ^い ^の ^も ^の ^を ^持 ^っ ^て ^き ^て ^し ^ま ^う 。	1	2	3
わたしは、 ^ほ ^か ^の ^こ ^ら ^い ^ち ^ど ^も ^た ^ち ^よ ^り 、 ^お ^と ^な ^と ^い ^る ^か ^た ^が ^う ^ま ^く ^い ^く 。	1	2	3
わたしは、 ^こ ^わ ^が ^り ^で 、 すぐ ^す ^ぐ ^に ^お ^び ^え ^た ^り ^す ^る 。	1	2	3
わたしは、 ^も ^の ^ご ^と ^を ^最 ^後 ^ま ^で ^や ^り ^と ^げ 、 ^し ^ゆ ^う ^ち ^ゆ ^り ^よ ^く ^も ^あ ^る 。	1	2	3

問18 あなたの^{かん} ^が ^に ^も ^っ ^と ^も ^ち ^か ^の ^も ^の ^を ^選 ^ん ^で ^く ^だ ^さ ^い。
(それぞれ、あてはまる^{ばん} ^{ごう} ^番 ^号 ¹ ^つ ^に [○])

	全 ^ま ^た ^く ^な ^い	少 ^す ^し ^だ ^け	た ^た ^い ^て ^い	い ^い ^つ ^も
もし ^じ ^ぶ ^ん ^か ^ぞ ^く ^が ^コ ^ロ ^ナ ^に ^な ^っ ^た ^ら 、 その ^ひ ^み ^つ ^は ^秘 ^密 ^に ^し ^た ^い	1	2	3	4
コロナ ^ひ ^と ^は 、 なる ^よ ^う ^な ^こ ^と ^を ^し ^た ^の ^だ ^と ^お ^も ^う	1	2	3	4
コロナ ^ひ ^と ^は 、 コロナ ^な ^お ^が ^治 ^つ ^て ^も 、 付 ^つ ^き ^合 ^う ^の ^を ^た ^め ^ら ^う (^い ^っ ^{しょ} ^に ^あ ^そ ^び ^た ^く ^な ^い)	1	2	3	4

アンケートは以上^{いじょう} ^で ^す。
ご^ご ^き ^{よう} ^り ^よ ^く ^あ ^り ^が ^と ^う ^ご ^ざ ^い ^ま ^し ^た。

3. 新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言下、緊急事態宣言後における世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関係

研究分担者 村山 伸子（所属：新潟県立大学人間生活学部）

研究協力者 堀川 千嘉（所属：新潟県立大学人間生活学部）

研究要旨

2020年より感染拡大している新型コロナウイルス感染症影響により、緊急事態宣言が発令され、この期間では多くの小中学校等学校が臨時休業となり、児童・生徒への学校給食は提供されず、児童・生徒は、この期間において原則家庭内で食事摂取する状況が生じた。学校給食は、世帯の社会経済状態により生じうる児童の食品群や栄養素摂取の格差を是正する重要な食事・システムである。よって、本研究では、緊急事態宣言下および緊急事態宣言後における世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関連を明らかにすることを目的とした。調査対象は、全国8地域区分（北海道・東北、関東、北陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）から無作為に各6～7自治体抽出した計50自治体に居住する小学5年生の児童あるいは中学2年生の生徒がいる世帯、それぞれ1500世帯（各自治体30世帯）である。2020年12月に回答を依頼した、当該世帯の保護者が回答した調査票をもとに、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感について、欠損データの無い1111名を最終的な分析対象とした。分析は、 χ^2 二乗検定、一元配置分散分析、ポアソン回帰分析を用いた。結果、新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取している者の割合は、所得の違いにかかわらず、緊急事態宣言前よりも有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻った。くわえて、低所得群では、高所得群と比較して、緊急事態宣言後は、その1年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なくなり、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、所得のどの分位でも、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で1日2回以上摂取出来ている状況に戻る事が明らかになった。特に、緊急事態宣言下では、最も所得が少ない群と次に所得が少ない群において肉・魚・卵および野菜をいずれも1日

2回以上摂取している者の割合が少なかった。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス）が2020年より感染拡大している。この影響により、緊急事態宣言が発令され、緊急事態措置期間である2020年4月16日から5月13日にかけては、ほとんどの都道府県で小中学校等の文教施設を含む施設の使用制限等の協力要請がなされ、多くの小中学校が臨時休業となった。臨時休業となった学校では学校給食は提供されず、児童・生徒は、この期間において原則家庭内で食事摂取することになった。学校給食は、子どもの栄養摂取状況や成長に寄与し、世帯の社会経済状態により生じる児童の食品群や栄養素摂取の格差を是正する重要な食事であり、システムであることが示されている。よって、緊急事態宣言下という学校給食が提供されない期間において、世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関係について検討を行った。くわえて、緊急事態宣言後においても世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関係がみられるか、検討を行った。

B. 研究方法

1. 対象世帯・対象者

全国8地域区分（北海道・東北、関東、北陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）から、各区分毎に6～7自治体、計50自治体が無作為抽出し、さらに、2020年度の住民基本台帳をもとに各自治体から居住する小学5年生の児童あるいは中学2年生の生徒がいる世帯をそれぞれ1500世帯（各自治体30世帯）抽出した。対象者には12月に本

人および保護者宛の調査票を送付した。

本研究は保護者が回答した調査票をもとに検討を行うことし、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感について、すべてのデータがそろっている1111名について分析対象とした。

2. 分析方法

世帯の社会経済状態は、所得を用いて検討すること歳、これは世帯の年間収入を世帯人数のルートで割ることで算出した。所得は各調査自治体別に四分位にして、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感との関係を分析した。解析には、 χ^2 二乗検定、一元配置分散分析、ポアソン回帰分析を用いた。くわえて、児童・生徒の食事摂取状況について、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合を所得四分位別に検討した。解析は、ポアソン回帰分析を行った。

（倫理面への配慮）

本研究の依頼文書では、調査目的に加え、研究への協力は自由意思であること、断った場合や途中で辞退する場合も不利益がないこと、公表結果はすべて個人が特定されないことを明記した。本研究は、国立成育医療研究センター倫理委員会（承認番号：

2020-168) および新潟県立大学倫理審査委員会の承認(承認番号:2025)を得て実施した。

C. 研究結果

所得の四分位別に見た対象者の特性を表1に示す。所得の低い者は多いものと比較して世帯員数が多く、世帯年収が低く、緊急事態宣言後の暮らし向きが以前より苦しくなる者の割合が高く、両親の学歴が低い傾向にあった。BMIにおいても有意差が認められたが、臨床的に意味のある差はみられなかった。

表2に、所得の四分位別に見た、児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後の食事摂取状況を示す。緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、乳製品(牛乳、ヨーグルト、チーズなど)・肉、魚、卵・野菜・果物について、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取できている割合を検討したところ、所得いずれの分位においても、緊急事態宣言前と比較して、緊急事態宣言下では、各食品群を1日2回以上摂取できている割合が有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言下と比較して、各食品群を1日2回以上摂取できている割合が多く、その割合は、緊急事態宣言前と有意差が見られないことが明らかとなった。

所得と生徒の家庭における、1年前と比較した、緊急事態宣言後の主観的な食事準備への負担感の関係を、表3に示す。1年前より食事を作る時間の余裕が少なくなった家庭は、所得が最も高い群(Q1)と比較して、最も低い群(Q4)で有意に多いことが明らかとなった。1年前より心の余裕が少なくなった

家庭は、Q1と比較してQ3およびQ4で有意に多かった。さらに、1年前より食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった家庭は、Q1と比較して、Q2、Q3、およびQ4で有意に多かった。

表4に、所得の四分位別に見た、児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合を示す。緊急事態宣言下では、1日2回以上摂取できている割合が有意に少なかった。そして、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言下と比較して、1日2回以上摂取できている割合が多く、その割合は、緊急事態宣言前と有意差が見られないことが明らかとなった。ただし、所得の各分位において上記の割合を図示すると(図1)、所得が低い分位であるほど、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後、いずれにおいても、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合が少なく、特に、緊急事態宣言下では、Q3とQ4における割合が少ないことが明らかとなった。

D. 考察

本研究より、新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、所得の違いにかかわらず、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取できている割合は、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で各食品群を1日2回以上摂取出来ている状況に戻ることが明らかになった。これは、学校給食が所得の違いを超えて、子どもの望ましい食事摂取に寄与する重要な食事及びシステム

であることを、これまでの研究と同様支持するものである。そして、緊急事態宣言下では、給食が実施されないためにその保障から外れたことが、本研究で示された。

そして、低所得の群では、高所得の群と比較して、緊急事態宣言後は、その一年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なくなり、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。これは、新型コロナ流行下における、表1にみられる主に低所得者層での暮らし向きの悪化に伴い、家庭内での子どもの成長に望ましい栄養摂取状況を満たす食事の準備が難しくなりつつあることを示唆するものである。

さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、所得のどの分位でも、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で1日2回以上摂取出来ている状況に戻ることが明らかになった。ただし、所得が低い分位であるほど、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後、いずれにおいても、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合が少なく、特に、緊急事態宣言下では、最も所得が少ない群(Q4)と次に所得が少ない群(Q3)における割合が少ないことが明らかとなった。これは、緊急事態宣言下における給食の中止が、特に低所得者層の児童・生徒が、主菜に相当する肉・魚・卵と、副菜に相当する野菜の両者を組み合わせた食事の摂取を難しくしたことを示すものである。そして、緊急事態宣言後におい

て、主菜と副菜を組み合わせた食事摂取がより高率に可能となったが、低所得者層のほうが主菜と副菜を組み合わせた食事摂取の割合は低い状態は緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後を通して継続したことを示すものである。

新型コロナは、現在も流行中で、収束への道のりはまだまだ課題が多い状況である。児童・生徒の食事摂取状況は、世帯の社会経済状態による差が見られるものの、緊急事態宣言下から宣言後にかけて、緊急事態宣言前と同様の状況に戻った。しかし、特に本研究でみられた、低所得者層での暮らし向きの悪化が、新型コロナ流行が継続することにより、長期的なものとなれば、家庭内で子どもの成長に望ましい栄養摂取状況を満たす食事を提供することがさらに難しくなる可能性がある。今後さらに、新型コロナ流行下において、世帯の社会経済状態と児童・生徒の食事摂取状況の関係を継続的な検討を行うとともに、世帯の社会経済状態にかかわらず望ましい食生活をいとなむための環境整備が求められる。

E. 結論

新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取している者の割合は、所得の違いにかかわらず、緊急事態宣言前よりも有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻った。また、低所得群では、高所得群と比較して、緊急事態宣言後は、その一年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なくなり、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られ

た。さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、所得のどの分位でも、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で1日2回以上摂取出来ている状況に戻ることが明らかになった。特に、緊急事態宣言下では、最も所得が少ない群と次に所得が少ない群)において肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合が少なかった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1. 所得四分位別に見た、10～14歳の児童・生徒における家庭状況

		所得				p †
		Q1(最も高い)	Q2	Q3	Q4(最も低い)	
		N=328	N=265	N=284	N=234	
		%	%	%	%	
性	男子	46.3%	52.1%	48.6%	53.0%	0.357
	女子	53.7%	47.9%	51.4%	47.0%	
世帯員数	2人	6.4%	4.2%	4.9%	11.1%	< 0.001
	3人	16.5%	12.8%	13.7%	14.5%	
	4人	52.7%	41.5%	40.5%	25.6%	
	5人	19.2%	32.1%	23.6%	27.8%	
	6人	3.4%	6.8%	12.7%	12.8%	
	7人以上	1.8%	2.6%	4.6%	8.1%	
	世帯年収	100万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	
	100万円以上 200万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	20.5%	
	200万円以上 300万円未満	0.0%	0.0%	5.3%	23.1%	
	300万円以上 400万円未満	0.0%	1.9%	12.7%	27.4%	
	400万円以上 500万円未満	0.6%	10.2%	33.5%	14.5%	
	500万円以上 600万円未満	2.4%	21.9%	26.8%	3.8%	
	600万円以上 700万円未満	9.8%	23.8%	12.3%	2.6%	
	700万円以上 800万円未満	12.2%	24.5%	5.6%	2.6%	
	800万円以上 1000万円未満	32.6%	12.1%	3.2%	0.4%	
緊急事態宣言後の暮らし向き	今のほうが苦しい	13.4%	17.7%	32.0%	48.3%	< 0.001
	変わらない	80.8%	77.0%	63.0%	44.4%	
	今のほうが楽	5.5%	4.2%	3.9%	3.4%	
	わからない・答えたくない	0.3%	1.1%	1.1%	3.8%	
母親の学歴	中学校	0.3%	1.1%	3.9%	7.3%	< 0.001
	高等学校	18.3%	23.4%	28.5%	41.5%	
	専門学校	19.8%	23.4%	21.8%	21.8%	
	短期大学	22.3%	25.3%	24.3%	19.7%	
	大学・大学院	39.0%	25.7%	20.8%	9.4%	
父親の学歴	母親は知らない・わからない・答えたくない	0.3%	1.1%	0.7%	0.4%	< 0.001
	中学校	2.1%	2.6%	7.4%	9.0%	
	高等学校	22.6%	31.7%	39.1%	33.8%	
	専門学校	11.3%	14.7%	16.2%	15.4%	
	短期大学	0.6%	4.5%	2.1%	1.7%	
	大学・大学院	62.2%	44.5%	32.0%	20.1%	
	母親は知らない・わからない・答えたくない	1.2%	1.9%	3.2%	20.1%	
子どもの身体状況		Mean±SD	Mean±SD	Mean±SD	Mean±SD	p for trend ‡
	身長 (cm)	150.6±11.2	150.7±10.8	149.7±11.1	151.4±11.3	0.777
	体重 (kg)	42.8±10.6	42.1±9.9	42.3±10.9	44.3±11.9	0.164
	BMI (kg/m ²)	18.6±2.8	18.3±2.7	18.6±3.1	19.2±3.9	0.040

†χ² 二乗検定を用いた。

‡一元配置分散分析を用いた。

表2. 所得四分位別に見た、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後の食事摂取状況

所得	緊急事態宣言前		緊急事態宣言下		緊急事態宣言後	
	%	%	%	%	p	
1日2回以上、以下の食品群を摂取している						
乳製品 (牛乳、ヨーグルト、 チーズなど)	Q1(最も高い)	81.7%	49.7%	83.5%	<0.001	
	Q2	75.8%	50.2%	77.0%	<0.001	
	Q3	72.2%	42.3%	76.1%	<0.001	
	Q4(最も低い)	66.7%	32.9%	69.2%	<0.001	
肉、魚、卵	Q1(最も高い)	96.6%	86.3%	97.9%	<0.001	
	Q2	95.5%	82.3%	96.6%	<0.001	
	Q3	95.4%	76.1%	96.1%	<0.001	
	Q4(最も低い)	95.3%	76.9%	96.6%	<0.001	
野菜	Q1(最も高い)	92.1%	80.2%	93.6%	<0.001	
	Q2	91.3%	79.6%	93.2%	<0.001	
	Q3	90.8%	69.7%	91.9%	<0.001	
	Q4(最も低い)	88.0%	66.7%	88.9%	<0.001	
果物	Q1(最も高い)	41.5%	13.7%	44.2%	<0.001	
	Q2	33.2%	16.6%	38.1%	<0.001	
	Q3	29.2%	9.5%	35.6%	<0.001	
	Q4(最も低い)	35.9%	14.5%	39.7%	<0.001	
いずれも、毎日 食べていない	Q1(最も高い)	1.2%	8.2%	0.6%	<0.001	
	Q2	1.9%	6.8%	1.1%	<0.001	
	Q3	3.5%	14.8%	2.8%	<0.001	
	Q4(最も低い)	2.6%	15.8%	2.6%	<0.001	

χ^2 二乗検定を用いた。

表3. 所得四分位別に見た、10～14歳の児童・生徒の家庭における、1年前と比較した緊急事態宣言後の主観的な食事準備への負担感

	所得								
	Q1(最も高い)		Q2		Q3		Q4(最も低い)		
	N=328	N=265	N=284	N=234	N=328	N=265	N=284	N=234	
	%	%	p (vs. Q1)	%	p (vs. Q1)	%	p (vs. Q1)	%	p (vs. Q1)
食事を作る時間の余裕が少なくなった	11.9%	12.8%	0.746	16.9%	0.103	18.4%	0.049	12.0%	0.199
食事を作る時間の余裕が増えた	16.2%	11.7%	0.153	13.0%	0.315	12.0%	0.199	17.9%	0.051
食事を作る心の余裕が少なくなった	11.6%	16.6%	0.104	18.3%	0.032	17.9%	0.051	9.0%	0.348
食事を作る心の余裕が増えた	11.6%	6.8%	0.062	8.1%	0.175	9.0%	0.348	31.6%	<0.001
食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった	4.9%	10.6%	0.014	17.6%	<0.001	31.6%	<0.001	46.2%	0.025
いずれもあてはまらない	60.4%	59.6%	0.908	52.5%	0.196	46.2%	0.025		

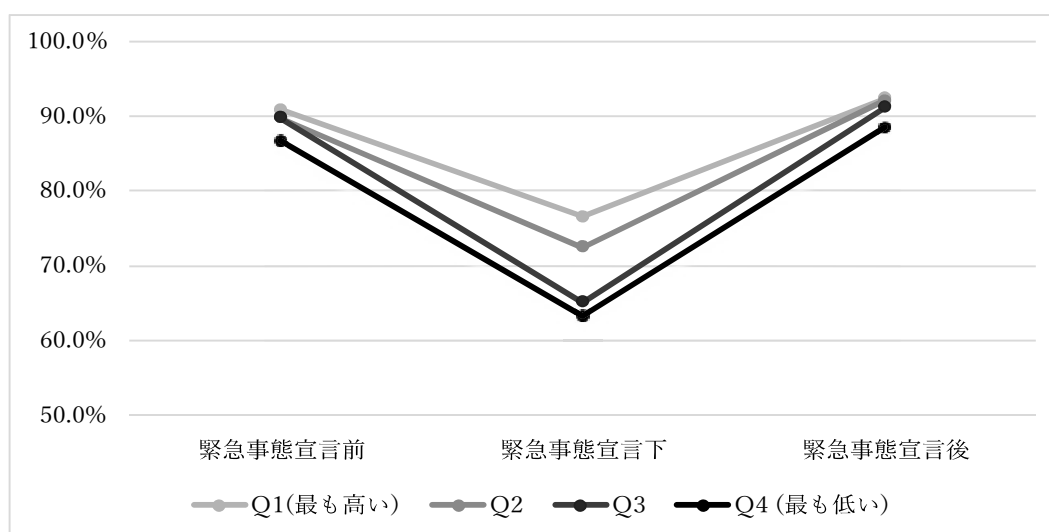
p 値はボワソン回帰分析により算出した。

表4. 所得四分位別に見た、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合

所得	緊急事態宣言前		p (vs. 緊急事態宣言前)	緊急事態宣言後		p (vs. 緊急事態宣言前)
	%	%		%	%	
Q1(最も高い)	90.9%	76.5%	<0.001	92.4%	0.558	
Q2	89.8%	72.5%	<0.001	92.1%	0.454	
Q3	89.8%	65.1%	<0.001	91.2%	0.645	
Q4(最も低い)	86.8%	63.2%	<0.001	88.5%	0.633	

p 値はボワソン回帰分析により算出した。

表1. 所得四分位別に見た、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合（表4を図示したもの）



4. 新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言下、緊急事態宣言後における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関係

研究分担者 村山 伸子（所属：新潟県立大学人間生活学部）

研究協力者 堀川 千嘉（所属：新潟県立大学人間生活学部）

研究協力者 三瓶 舞紀子（所属：国立成育医療研究センター社会医学研究部）

研究要旨

2020年より感染拡大している新型コロナウイルス感染症影響により、緊急事態宣言が発令され、この期間では多くの小中学校等学校が臨時休業のため学校給食は提供されず、児童・生徒は、原則家庭内に限り食事摂取する状況が生じた。家庭内での食事内容は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが関連する。よって本研究は、緊急事態宣言下および緊急事態宣言後における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関連を明らかにすることを目的とした。調査対象は、全国8地域区分（北海道・東北、関東、北陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）から無作為に各6～7自治体抽出した計50自治体に居住する小学5年生の児童あるいは中学2年生の生徒がいる世帯、それぞれ1500世帯（各自治体30世帯）であった。回答を依頼した、当該世帯の保護者が回答した調査票をもとに、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルについて、欠損データの無い1107名を最終的な分析対象とした。分析は、 χ^2 二乗検定、一元配置分散分析、ポアソン回帰分析を用いた。結果、新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況の違いにかかわらず、緊急事態宣言前よりも有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻った。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い群では、高得点群と比較して、緊急事態宣言後は、その1年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なく、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点に

関わらず、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻ることが明らかになった。特に、緊急事態宣言下では、特に保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が少ない群で割合が少ないことが明らかとなった。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス）が2020年より感染拡大している。この影響により、緊急事態宣言が発令され、緊急事態措置期間である2020年4月16日から5月13日にかけては、ほとんどの都道府県で小中学校等の文教施設を含む施設の使用制限等の協力要請がなされ、多くの小中学校が臨時休業となった。臨時休業となった学校では学校給食は提供されず、児童・生徒は、この期間において原則家庭内で食事摂取することになった。学校給食は、子どもの栄養摂取状況や成長に寄与する重要な食事であり、システムである。よって、緊急事態宣言下という学校給食が提供されない期間においては、家庭内での食事に1日の食品群・栄養素摂取が依存する。家庭内での食事は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが、提供される食事が望ましい食品群摂取や栄養素摂取と関連することが報告されている。そこで本研究では、緊急事態宣言下における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関係について検討を行った。くわえて、緊急事態宣言後においても保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと児童・生徒の食事摂取状況の関係がみられるか、検討を行った。

B. 研究方法

1. 対象世帯・対象者

全国8地域区分（北海道・東北、関東、北

陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）から、各区分毎に6～7自治体、計50自治体は無作為抽出し、さらに、2020年度の住民基本台帳をもとに各自治体から居住する小学5年生の児童あるいは中学2年生の生徒がいる世帯をそれぞれ1500世帯（各自治体30世帯）抽出した。対象者には12月に本人および保護者宛の調査票を送付した。

本研究は保護者が回答した調査票をもとに検討を行うことし、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルについて、すべてのデータがそろっている1107名について分析対象とした。

2. 分析方法

保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルに関する項目は、表1に示す7項目である。調査項目は9項目あり、表1以外の2項目「子どもの成長のために、栄養バランスがとれた食事は重要だ」（態度）、「値段が高いことを理由に、野菜・果物などを買う量を減らすことはある」（態度）は、因子分析の結果、他の項目との関連が弱く除外した結果、残りの7項目は、2項目が知識、2項目が態度、3項目がスキルを表すと解釈できた。

各項目の回答について、全くわからない＝1点、少しわかる＝2点どちらもとも言えない＝3点、だいたいわかる＝4点、よくわかる

＝5点として、各項目の回答を点数化し、7項目分の点数を合計したものを、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが良好かどうかの判断に用い、高得点であるほど良好であると判定した。7項目分の点数の合計を四分位にし（表2）、児童・生徒の性・身長・体重、世帯員数、世帯年収、緊急事態宣言後の暮らし向き、両親の学歴、児童・生徒の食事摂取状況、1年前と比較した緊急事態宣言後の家庭における主観的な食事準備への負担感との関係を分析した。解析には、 χ^2 二乗検定、一元配置分散分析、ポアソン回帰分析を用いた。くわえて、児童・生徒の食事摂取状況について、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合を、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点四分位別に、に検討した。解析は、ポアソン回帰分析を行った。

（倫理面への配慮）

本研究の依頼文書では、調査目的に加え、研究への協力は自由意思であること、断った場合や途中で辞退する場合も不利益がないこと、公表結果はすべて個人が特定されないことを明記した。本研究は、国立成育医療研究センター倫理委員会（承認番号：2020-168）および新潟県立大学倫理審査委員会の承認（承認番号：2025）を得て実施した。

C. 研究結果

保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点四分位別に見た対象者の特性を表3に示す。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点四分位別

の低い群は高い群と比較して、世帯年収が低く、緊急事態宣言後の暮らし向きが以前より苦しくなる者の割合が高く、両親の学歴が低い傾向にあった。

表4に、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点四分位別に見た、児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後の食事摂取状況を示す。緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、乳製品（牛乳、ヨーグルト、チーズなど）・肉・魚・卵・野菜・果物について、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取できている割合を検討したところ、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点いずれの分位においても、緊急事態宣言前と比較して、緊急事態宣言下では、各食品群を1日2回以上摂取できている割合が少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言下と比較して、各食品群を1日2回以上摂取できている割合が多く、その割合は、緊急事態宣言前と大きな差は見られないことが明らかとなった。

保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと生徒の家庭における、1年前と比較した、緊急事態宣言後の主観的な食事準備への負担感の関係を、表5に示す。1年前より食事を作る時間の余裕が少なくなった家庭は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計点数が最も高い群（Q1）と比較して、より低い合計点数の群であるQ3、Q4で有意に多く、食事を作る時間の余裕が増えた家庭は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計点数が最も高い群（Q1）と比較して、より低い合計点数の群であるQ3、Q4で有意に少ないことが明らかとなった。1年前より心の余裕が少なくな

った家庭は、Q1と比較してQ3およびQ4で有意に多く、1年前より心の余裕が増えた家庭は、Q1と比較してQ2、Q3、およびQ4で有意に少なかった。さらに、1年前より食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった家庭は、Q1と比較して、Q3、およびQ4で有意に多かった。

表6に、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの四分位別に見た、児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合を示す。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点いずれの分位においても、緊急事態宣言下では、緊急事態宣言前と比較して、1日2回以上摂取できている割合が有意に少なかった。そして、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言下と比較して、1日2回以上摂取できている割合が多く、その割合は、緊急事態宣言前と有意差が見られないことが明らかとなった。ただし、所得の各分位において上記の割合を図示すると（図1）、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い分位であるほど、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後、いずれにおいても、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合が少なく、特に、緊急事態宣言下では、Q3とQ4における割合が少ないことが明らかとなった。

D. 考察

本研究より、新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況にかかわらず、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果

物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取できている割合は、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で各食品群を1日2回以上摂取出来ている状況に戻る事が明らかになった。これは、学校給食が所得の違いを超えて、子どもの望ましい食事摂取に寄与する重要な食事及びシステムであることを、これまでの研究と同様支持するものである。そして、緊急事態宣言下では、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが良好であっても、給食が実施されないためにその保障から外れた状況にあったことを示すものといえる。

そして、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点の低い群では、高得点の群と比較して、緊急事態宣言後は、その1年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なくなり、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。これは、新型コロナ流行下における、暮らし向きの悪化にも留意する必要があるが、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが不足している場合に、家庭内での子どもの成長に望ましい栄養摂取状況を満たす食事の準備が難しくなりがちであることを示唆するものである。

さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点のどの分位でも、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合で1日2回以上摂取出来ている状況に

戻ることが明らかになった。ただし、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い分位であるほど、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後、いずれにおいても、肉・魚・卵および野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合が少なく、特に、緊急事態宣言下では、最も保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が少ない群（Q4）と次に合計得点が少ない群（Q3）における割合が少ないことが明らかとなった。これは、緊急事態宣言下における給食の中止が、特に保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが不足している児童・生徒が、主菜に相当する肉・魚・卵と、副菜に相当する野菜の両者を組み合わせた食事の摂取を難しくしたことを示すものである。そして、緊急事態宣言後において、主菜と副菜を組み合わせた食事摂取がより高率に可能となったが、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルが不足している児童・生徒のほうが、主菜と副菜を組み合わせた食事摂取の割合は低い状態が緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後を通して継続したことを示すものである。

児童・生徒の食事摂取状況は、世帯の社会経済状態による差が見られるものの、緊急事態宣言下から宣言後にかけて、緊急事態宣言前と同様の状況に戻った。しかし、新型コロナは、現在も流行中で、収束への道のはまだまだ課題が多い状況である。新型コロナ流行下という、これまでの生活と異なる中で、児童・生徒が家庭内で望ましい食事摂取をし、健全な心身の発達につなげるためにも、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルをより望ましいものにしていく

ための環境整備や情報の発信、教育が求められる。

E. 結論

新型コロナ流行による緊急事態宣言下では、乳製品・肉、魚、卵・野菜・果物を、それぞれ1日2回以上児童・生徒が摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況の違いにかかわらず、緊急事態宣言前よりも有意に少なく、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻った。保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が低い群では、高得点群と比較して、緊急事態宣言後は、その一年前よりも、食事を作る時間や心の余裕が少なく、食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった者が有意に多く見られた。さらに、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において、主菜に相当する肉・魚・卵および副菜に相当する野菜をいずれも1日2回以上摂取している者の割合は、保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点に関わらず、緊急事態宣言前と比較して有意に少なくなり、緊急事態宣言後では、緊急事態宣言前と同程度の割合に戻ることが明らかになった。特に、緊急事態宣言下では、特に保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点が少ない群で割合が少ないことが明らかとなった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし

表1. 10～14歳の児童・生徒における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキル

	全くわからない		少しわかる		どちらとも言えない		だいたいわかる		よくわかる	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
5つ以上の生の食材を用いて、子どもの食事を一食分作ることは、難しい(スキル)	219	19.7%	282	25.4%	157	14.1%	280	25.2%	173	15.6%
子どものために、栄養バランスがとれた食事を作ることは、難しい(スキル)	155	14.0%	329	29.6%	162	14.6%	318	28.6%	146	13.1%
子どものために、主食・主菜・副菜がそろった食事を用意することは、惣菜を利用して難しい(スキル)	45	4.1%	129	11.6%	184	16.6%	462	41.6%	290	26.1%
栄養バランスがとれた食事とはどのような食事か、わかる(知識)	9	0.8%	227	20.4%	66	5.9%	550	49.5%	259	23.3%
主食、主菜、副菜とは、それぞれのどのような料理か、わかる(知識)	12	1.1%	189	17.0%	31	2.8%	529	47.6%	349	31.4%
子どもの食事について、主食・主菜・副菜をそろえて食べさせようと思う(態度)	12	1.1%	77	6.9%	173	15.6%	611	55.0%	238	21.4%
子どもの食事の準備をする際は、その前後の食事で何を食べたか、あるいは食べる予定かを考慮している(態度)	81	7.3%	170	15.3%	245	22.1%	435	39.2%	179	16.1%

表2. 10～14歳の児童・生徒における保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点状況

保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点	点	
	N	%
Q1	230	20.8
Q2	279	25.2
Q3	273	24.7
Q4	325	29.4
合計	1107	100.0

表3. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと、10～14歳の児童・生徒における家庭状況の関係

		保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点				p †	
		Q1 30 点以上 N=230 %	Q2 26-29 点 N=279 %	Q3 22-25 点 N=273 %	Q4 21 点以下 N=325 %		
性	男子	49.6%	47.3%	49.1%	52.0%	0.714	
	女子	50.4%	52.7%	50.9%	48.0%		
世帯員数	2 人	4.8%	6.8%	6.2%	7.7%	0.446	
	3 人	17.0%	11.1%	16.8%	13.5%		
	4 人	40.4%	46.6%	39.2%	39.1%		
	5 人	27.8%	24.7%	24.5%	24.0%		
	6 人	6.1%	7.9%	8.8%	10.8%		
	7 人以上	3.9%	2.9%	4.4%	4.9%		
世帯年収	100 万円未満	0.9%	0.4%	1.5%	1.5%	< 0.001	
	100 万円以上 200 万円未満	3.0%	2.9%	3.3%	7.4%		
	200 万円以上 300 万円未満	2.6%	6.5%	8.1%	7.1%		
	300 万円以上 400 万円未満	7.4%	8.2%	8.1%	13.2%		
	400 万円以上 500 万円未満	10.9%	10.0%	17.6%	17.5%		
	500 万円以上 600 万円未満	12.6%	10.4%	15.8%	15.4%		
	600 万円以上 700 万円未満	8.3%	12.5%	10.6%	16.3%		
	700 万円以上 800 万円未満	12.6%	15.1%	9.9%	8.6%		
	800 万円以上 1000 万円未満	20.4%	13.6%	15.0%	6.8%		
緊急事態宣言後の暮らし向き	1000 万円以上	21.3%	20.4%	10.3%	6.2%	< 0.001	
	今のほうが苦しい	19.6%	20.4%	27.1%	36.6%		
	変わらない	76.5%	74.2%	65.6%	57.2%		
	今のほうが楽	3.0%	5.4%	5.9%	3.1%		
母親の学歴	わからない・答えたくない	0.9%	0.0%	1.5%	3.1%	< 0.001	
	中学校	3.0%	1.4%	1.1%	5.5%		
	高等学校	19.6%	23.7%	26.7%	35.7%		
	専門学校	17.0%	18.3%	27.5%	22.8%		
	短期大学	24.3%	25.4%	24.2%	18.8%		
	大学・大学院	36.1%	30.8%	20.1%	15.7%		
父親の学歴	母親はいない・わからない・答えたくない	0.0%	0.4%	0.4%	1.5%	< 0.001	
	中学校	4.3%	4.7%	3.3%	7.4%		
	高等学校	24.8%	28.3%	37.0%	34.2%		
	専門学校	12.2%	14.0%	14.3%	16.0%		
	短期大学	0.9%	2.2%	2.9%	2.5%		
	大学・大学院	53.9%	47.0%	36.6%	31.1%		
児童・生徒の身体状況	母親はいない・わからない・答えたくない	3.9%	3.9%	5.9%	8.9%	p for trend ‡	
	Mean±SD	Mean±SD	Mean±SD	Mean±SD			
	身長 (cm)	151.6±11.7	150.1±10.5	150.9±11.3	150.0±11.1		0.222
	体重 (kg)	43.0±10.7	42.8±10.6	42.5±10.5	43.0±11.3		0.911
	BMI (kg/m ²)	18.5±2.8	18.8±3.6	18.5±2.6	18.9±3.2		0.400

†χ² 二乗検定を用いた。

‡一元配置分散分析を用いた。

表4. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後の食事摂取状況との関係

		保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点	緊急事態宣言前	緊急事態宣言下	緊急事態宣言後	p
			%	%	%	
1日2回以上、以下の食品群を摂取している	乳製品(牛乳、ヨーグルト、チーズなど)	Q1 30点以上	80.0%	53.9%	81.7%	<0.001
		Q2 26-29点	80.6%	48.0%	81.4%	<0.001
		Q3 22-25点	73.3%	42.5%	76.6%	<0.001
		Q4 21点以下	66.8%	35.7%	70.2%	<0.001
肉、魚、卵		Q1 30点以上	99.1%	90.4%	99.6%	<0.001
		Q2 26-29点	97.8%	88.9%	99.3%	<0.001
		Q3 22-25点	94.9%	78.4%	96.7%	<0.001
		Q4 21点以下	92.3%	68.6%	92.9%	<0.001
野菜		Q1 30点以上	99.1%	91.7%	98.7%	<0.001
		Q2 26-29点	97.8%	89.2%	98.6%	<0.001
		Q3 22-25点	87.5%	65.6%	90.5%	<0.001
		Q4 21点以下	81.2%	56.9%	83.1%	<0.001
果物		Q1 30点以上	45.7%	19.1%	50.9%	<0.001
		Q2 26-29点	39.1%	16.1%	43.4%	<0.001
		Q3 22-25点	28.6%	8.4%	32.6%	<0.001
		Q4 21点以下	29.8%	11.4%	34.2%	<0.001
いずれも、毎日食べていない		Q1 30点以上	0.4%	3.5%	0.4%	<0.001
		Q2 26-29点	0.0%	3.6%	0.0%	<0.001
		Q3 22-25点	3.7%	14.3%	1.8%	<0.001
		Q4 21点以下	4.3%	20.6%	4.0%	<0.001

χ²乗検定を用いた。

表5. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと、10～14歳の児童・生徒の家庭における、1年前と比較した緊急事態宣言後の主観的な食事準備への負担感の関係

	保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点						
	Q1		p (vs. Q1)	Q3		Q4	
	30点以上	26-29点		22-25点	21点以下		
	N=230	N=279	N=273	N=325			
	%	%	%	%	p (vs. Q1)	p (vs. Q1)	
食事を作る時間の余裕が少なくなった	9.1%	9.0%	0.949	17.9%	0.010	21.2%	0.001
食事を作る時間の余裕が増えた	19.1%	13.3%	0.100	11.7%	0.035	10.8%	0.011
食事を作る心の余裕が少なくなった	9.6%	11.5%	0.512	18.7%	0.009	21.5%	0.001
食事を作る心の余裕が増えた	16.1%	9.3%	0.033	6.6%	0.002	5.8%	<0.001
食材や食事を選んで買う経済的余裕が少なくなった	7.0%	12.2%	0.064	18.7%	0.001	20.6%	<0.001
いずれもあてはまらない	61.7%	62.4%	0.929	51.3%	0.119	47.7%	0.026

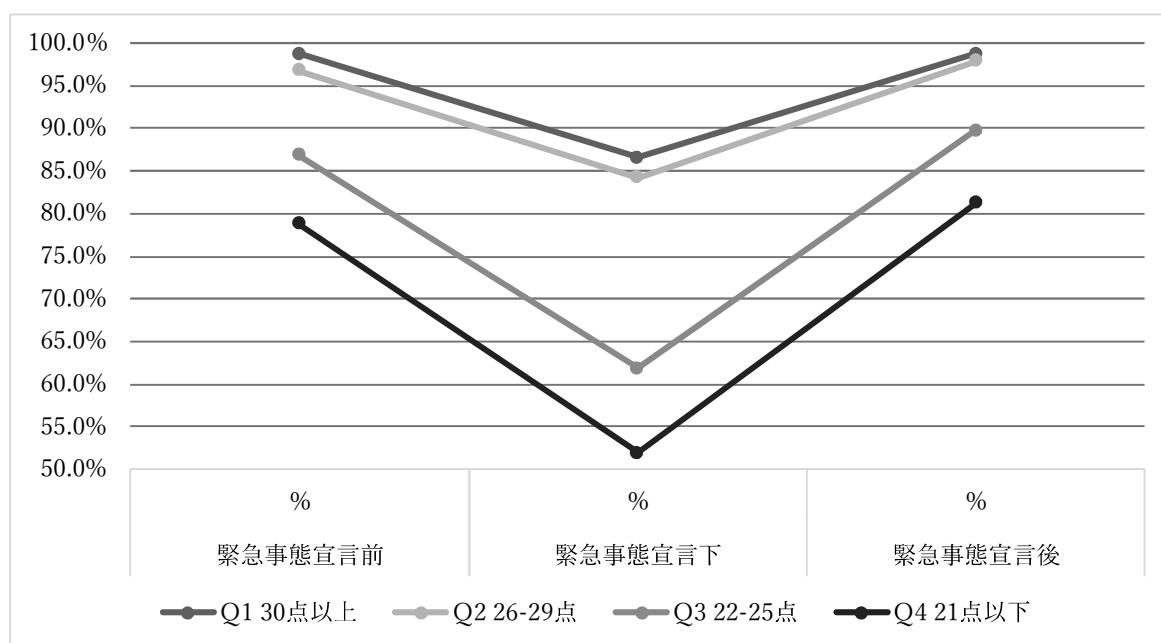
p値はポワソン回帰分析により算出した。

表6. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルと、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合

保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点	緊急事態宣言前 %	緊急事態宣言下 %	p (vs. 緊急事態宣言前)	緊急事態宣言後 %	p (vs. 緊急事態宣言前)
Q1 30点以上	98.7%	86.5%	<0.001	98.7%	1.000
Q2 26-29点	96.8%	84.2%	<0.001	97.8%	0.609
Q3 22-25点	86.8%	61.9%	<0.001	89.7%	0.373
Q4 21点以下	78.8%	52.0%	<0.001	81.2%	0.471

p 値はボワソン回帰分析により算出した。

表1. 保護者の食事準備に対する知識・態度・スキルの合計得点を四分位別に見た、10～14歳の児童・生徒の家庭における、緊急事態宣言前、緊急事態宣言下、緊急事態宣言後において肉・魚・卵と野菜の両者を1日2回以上食べている者の割合（表6を図示したもの）



令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
分担研究報告書

5. 新型コロナウイルス感染症流行期(2020年4-10月)における給食の実施状況について

研究分担者 森崎 菜穂（所属：国立成育医療研究センター 研究所 社会医学研究部）
研究協力者 田中 久子（所属：国立成育医療研究センター 研究所 社会医学研究部）

研究要旨

学校給食の有無によって、子どもたち栄養状態に影響があることは報告されているが、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)流行時における子どもの食品摂取や栄養状態の実態については、明らかになっていない。そこで、本調査は、2020年4～10月の学校給食の提供状況を全国的に調査し、コロナ流行時における学校給食の実態を明らかにすることを目的とした。調査項目は、「給食なし」、「通常給食」、「簡易給食」、「不明」、「休校/長期休暇」であり、2020年4～10月の給食実施状況について、カレンダー式で回答することとした。該当期間中の土日祝日を除き、簡易給食を1回以上実施した学校は55校であり、全体の26.8%が実施していた。市区町村別にみると、平均して10日以上簡易給食があったのは8自治体であった。簡易給食は全国的なものではなく、限定的(8自治体)かつ長期的(10～40日程度)であることから、該当自治体の子どもの給食提供状況は、平常時とは異なっていたことが推察される。全国的に、簡易給食の実施日数が多い自治体ほど、通常給食の実施日数が少ないため、自治体によっては、子どもたちが十分な栄養を摂取できていなかった可能性が考えられる。

A. 研究目的

2020年における「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」(以下、緊急事態宣言)は、4月7日に東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・大阪府・兵庫県・福岡県の7都府県を対象に発出され、4月16日に全国に拡大した。その際、小学校・中学校・高校は、ほとんどの学校が一斉休校を実施し、5月25日に首都圏の1都3県と北海道で解除されるまで継続された。すでに、3月2日から

臨時休校要請があった全国の小中高校では、およそ3か月間、学校給食が提供されない期間があった。そのうえ、簡易給食の実施や、授業時間数確保のための夏季登校において、給食の提供がない日もあり、これらの状況は、子どもたちの健康および栄養状態に悪影響を及ぼしたことが危惧される。子どもたちにとって、学校給食の影響は大きく、学校給食のない日は、ミネラル(特にカルシウム)、ビタミン、食物繊維などが不足

していることが報告されている¹⁾。また、学校給食のある日とない日の昼食を比較すると、学校給食のない日では、カルシウム、鉄、ビタミン、食物繊維の摂取量が少なく、食品群で見ると、牛乳、豆・豆製品類、種実類、野菜類の摂取量が顕著に少ないことが明らかになっている²⁾。このように、平常時において、学校給食の有無による影響があることは分かっているが、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)による子どもの食品摂取や栄養状態の実態については、明らかになっていない。そこで、本調査は、2020年4～10月の学校給食の提供状況を全国的に調査し、コロナ流行時における学校給食の実態を明らかにすることを目的とした。

B. 方法

「新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化およびその要因の解明のための研究」として本給食調査と同時に実施する家庭調査(住民基本台帳調査)で対象となった自治体をおよびその他の自治体を対象に行った。対象自治体内から、小学校および中学校を5校ずつ(5校未満の場合はその自治体の全校とした)をランダムに抽出し、2020年11月に各学校の校長を経由して栄養教諭に調査票(図1-1, 1-2)を郵送した。

調査項目は、「給食なし」、「通常給食」、「簡易給食」、「不明」、「休校/長期休暇」であり、2020年4～10月の給食実施状況について、カレンダー式で回答することとした。また、簡易給食が実施された場合は給食献立表の提供を依頼した。依頼文書では調査の目的に加え、研究への協力は自由意思であること、公表する結果はすべて統計処理することを明記した。本研究は、国立成育医療研究センター倫理委員会の承認を得て実施した

(承認番号：2020-168)。

C. 結果

調査票の配布は、全国479校に対して実施し、回収数は213校(回収率：44.5%)、有効回答数は205校(有効回答率：42.8%)であった。簡易給食を1回以上実施した学校は55校であり、全体の26.8%が実施していた(表1)。

表1. 2020年4～10月の簡易給食の実施有無

全体の学校数	実施(実施率)	未実施(未実施率)
205	55 (26.8%)	150 (73.2%)

表2に、2020年4～10月の土日祝日を除く自治体別給食実施平均日数を示した。全体でみると、「給食なし」が9.6日、「通常給食」が88.9日、「簡易給食」が4.2日、「不明」が0.0日、「休校/長期休暇」が41.3日であった。市区町村別にみると、平均して10日以上簡易給食があったのは8自治体であった。多い順に、茨城県水戸市が43.3日、福岡県北九州市若松区が33.5日、愛媛県松山市が23.0日、神奈川県横浜市青葉区が14.7日、大阪府大阪市淀川区が13.3日、群馬県伊勢崎市が12.7日、大阪府門真市が12.0日、愛知県岩倉市が10.0日であった。これらの簡易給食の実施日数が多い自治体は、通常給食の実施日数が少ない傾向にあった。

また、表3-1～7に、月別に給食実施状況を示した。4月、5月、8月は休校または長期休暇の学校が多かった。通常給食は5月の第3週から20～30校が再開され、徐々に増えていき、6月の第3週には8割(170校)を超えた。簡易給食は5月の第5週から10校を超えて実施され、8月まで10～26校で実施された。

D. 考察

2020年4月7日に発出された緊急事態宣言が、解除された5月25日以降、休校数が半数の100校を下回り、通常給食実施数が70～80校と、前の週の倍に増加した。また、簡易給食が10校を超えて実施され始めたのも同時期であり、政策と一致していることが分かった。簡易給食が多かったのは全国的ではなく、限定的(8自治体)かつ長期的(10～43日程度)であることから、該当自治体の子どもの給食提供状況は、平常時とは異なっていたことが推察される。

E. 結論

全国的に、簡易給食の実施日数が多い自治体ほど、通常給食の実施日数が少ないため、自治体によっては、子どもたちが十分な栄養を摂取できていなかった可能性も考えられる。それを明らかにするため、さらに、簡易給食の献立内容を解析する必要がある。

引用文献

- 1) Asakura K, Sasaki S. School lunches in Japan: their contribution to healthier nutrient intake among elementary-school and junior high-school children. Public Health Nutr 2017 ; 20(9):1523-1533.
- 2) 日本スポーツ振興センター. “平成22年度児童生徒の食事状況等調査報告書” https://www.jpnsport.go.jp/anzen/school_lunch/tabid/1491/Default.aspx (参照 2021/3/9)

F. 健康危機情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

図 1. 自記式調査票(上：表面、下：裏面)

学校名: _____ ID: _____

【2020年4月-10月 給食・簡易給食の実施状況等に関する記録用紙】

通常授業日、分散登校日、短縮授業日、自主登校日、など生徒が登校した日について、**矢印(→)**にてお答えください。 記入日: _____年____月____日
 長期休暇や休校(自主登校を除く)等のため、ほとんどの生徒が登校していない日については、**斜線(/)**を引いてください。

記入例

4月				5月				6月							
7月	給食なし	通常給食	簡易給食	4月	給食なし	通常給食	簡易給食	5月	給食なし	通常給食	簡易給食	6月	給食なし	通常給食	簡易給食
1	水			1	水			1	金			1	月		
2	木			2	木			2	土			2	火		
3	金			3	金			3	日			3	水		
4	土			4	土			4	月			4	木		
5	日			5	日			5	火			5	金		
6	月			6	月			6	水			6	土		
7	火			7	火			7	木			7	日		
8	水			8	水			8	金			8	月		
9	木			9	木			9	土			9	火		
10	金			10	金			10	日			10	水		
11	土			11	土			11	月			11	木		
12	日			12	日			12	火			12	金		
13	月			13	月			13	水			13	土		
14	火			14	火			14	木			14	日		
15	水			15	水			15	金			15	月		
16	木			16	木			16	土			16	火		
17	金			17	金			17	日			17	水		
18	土			18	土			18	月			18	木		
19	日			19	日			19	火			19	金		
20	月			20	月			20	水			20	土		
21	火			21	火			21	木			21	日		
22	水			22	水			22	金			22	月		
23	木			23	木			23	土			23	火		
24	金			24	金			24	日			24	水		
25	土			25	土			25	月			25	木		
26	日			26	日			26	火			26	金		
27	月			27	月			27	水			27	土		
28	火			28	火			28	木			28	日		
29	水			29	水			29	金			29	月		
30	木			30	木			30	土			30	火		
31	金			31	日			31	日						

自主登校期間 (4月16日 - 4月18日)

夏季休暇 (7月27日 - 8月2日)

【2020年4月-10月 給食・簡易給食の実施状況等に関する記録用紙(続き)】

7月				8月				9月				10月			
7月	給食なし	通常給食	簡易給食	8月	給食なし	通常給食	簡易給食	9月	給食なし	通常給食	簡易給食	10月	給食なし	通常給食	簡易給食
1	水			1	土			1	火			1	木		
2	木			2	日			2	水			2	金		
3	金			3	月			3	木			3	土		
4	土			4	火			4	金			4	日		
5	日			5	水			5	土			5	月		
6	月			6	木			6	日			6	火		
7	火			7	金			7	月			7	水		
8	水			8	土			8	火			8	木		
9	木			9	日			9	水			9	金		
10	金			10	月			10	木			10	土		
11	土			11	火			11	金			11	日		
12	日			12	水			12	土			12	月		
13	月			13	木			13	日			13	火		
14	火			14	金			14	月			14	水		
15	水			15	土			15	火			15	木		
16	木			16	日			16	水			16	金		
17	金			17	月			17	木			17	土		
18	土			18	火			18	金			18	日		
19	日			19	水			19	土			19	月		
20	月			20	木			20	日			20	火		
21	火			21	金			21	月			21	水		
22	水			22	土			22	火			22	木		
23	木			23	日			23	水			23	金		
24	金			24	月			24	木			24	土		
25	土			25	火			25	金			25	日		
26	日			26	水			26	土			26	月		
27	月			27	木			27	日			27	火		
28	火			28	金			28	月			28	水		
29	水			29	土			29	火			29	木		
30	木			30	日			30	水			30	金		
31	金			31	月							31	土		

ご協力ありがとうございました。簡易給食を実施した期間がある場合は、給食献立表(2020年4月-10月)も同封してご返送ください。
 依頼元：新型コロナウイルス感染症流行期前後における親子の食事と健康に関する実態調査(給食調査) 国立成育医療研究センター 森崎葉穂

表 2. 2020 年 4～10 月の自治体別給食実施平均日数

地域	自治体	回答数	給食なし	通常給食	簡易給食	不明	休校/長期休暇
北海道・東北	北海道札幌市清田区	4	12.3	91.8	5.5	0.0	34.5
北海道・東北	北海道富良野市	1	0.0	116.0	0.0	0.0	28.0
北海道・東北	岩手県盛岡市	3	12.7	104.3	0.0	0.0	27.0
北海道・東北	宮城県石巻市	9	6.9	95.8	0.0	0.0	41.3
北海道・東北	山形県山形市	4	9.0	95.0	1.5	0.0	38.5
北海道・東北	福島県須賀川市	8	9.9	92.5	0.0	0.0	41.6
関東	茨城県水戸市	7	10.9	48.9	43.3	0.0	41.0
関東	群馬県伊勢崎市	3	5.7	72.7	12.7	0.0	53.0
関東	埼玉県越谷市	7	3.6	86.9	0.0	0.0	53.6
関東	千葉県東金市	4	16.8	72.5	5.0	0.0	49.8
関東	東京都世田谷区	4	18.5	61.8	4.3	0.0	59.5
関東	東京都調布市	1	4.0	84.0	8.0	0.0	48.0
関東	神奈川県横浜市青葉区	3	32.7	48.3	14.7	0.0	48.3
北陸甲信越	新潟県新潟市中央区	3	6.0	99.3	0.0	0.0	38.7
北陸甲信越	新潟県燕市	6	7.3	106.8	0.0	0.0	29.8
北陸甲信越	富山県滑川市	5	1.0	96.0	4.2	0.0	42.8
北陸甲信越	石川県野々市市	6	3.3	92.7	1.2	0.0	46.8
北陸甲信越	山梨県北杜市	7	2.7	98.3	2.6	0.0	40.4
北陸甲信越	長野県飯田市	6	4.8	98.0	4.2	0.0	37.0
中部	静岡県静岡市葵区	2	18.5	84.0	0.0	0.0	41.5
中部	静岡県焼津市	2	9.5	99.0	0.0	0.0	35.5
中部	愛知県名古屋市長区						
中部	愛知県豊川市	6	9.0	93.7	0.3	0.0	41.0
中部	愛知県岩倉市	3	5.7	78.7	10.0	0.0	49.7
中部	三重県名張市	3	7.0	96.0	0.0	0.0	41.0
近畿	京都府京都市西京区	2	14.0	74.0	0.0	0.0	56.0
近畿	大阪府大阪市淀川区	4	3.8	81.5	13.3	0.0	45.5
近畿	大阪府高槻市	4	17.5	79.3	5.5	0.0	41.8
近畿	大阪府門真市	2	19.0	70.0	12.0	0.0	43.0
近畿	兵庫県姫路市	5	33.8	65.6	0.0	0.0	44.6
近畿	兵庫県川西市						
近畿	和歌山県田辺市	3	22.0	76.3	0.0	0.0	45.7
中国	島根県浜田市	4	1.0	110.0	0.0	0.0	33.0
中国	岡山県倉敷市	6	13.7	103.2	0.0	0.0	27.2
中国	広島県広島市東区	6	17.3	86.8	1.7	0.0	38.2
中国	広島県呉市	6	16.5	95.3	0.0	0.0	32.2
中国	広島県東広島市	3	0.0	99.7	0.0	0.0	44.3
中国	山口県岩国市	3	4.7	105.0	1.0	0.0	33.3
四国	徳島県名西郡石井町	4	9.3	103.0	0.0	0.0	31.8
四国	香川県丸亀市	4	6.5	89.8	0.0	0.0	47.8
四国	香川県さぬき市	4	3.3	98.3	7.8	0.0	34.8
四国	愛媛県松山市	4	11.8	60.3	23.0	0.0	49.0
四国	愛媛県今治市	7	6.7	91.0	0.0	0.0	46.3
四国	高知県香南市	4	3.3	108.5	0.0	0.0	32.3
九州・沖縄	福岡県北九州市若松区	2	32.5	40.5	33.5	0.0	37.5
九州・沖縄	福岡県大牟田市	5	8.4	92.4	0.0	0.0	43.2
九州・沖縄	福岡県鞍手郡鞍手町	2	11.5	89.0	4.0	0.0	39.5
九州・沖縄	熊本県熊本市中央区	5	4.8	84.6	0.0	0.0	54.6
九州・沖縄	大分県日田市	6	3.2	102.5	0.0	0.0	38.3
九州・沖縄	鹿児島県薩摩川内市	3	2.3	108.0	0.0	0.0	33.7
全体		205	9.6	88.9	4.2	0.0	41.3

表 3-1. 2020 年 4 月の給食実施状況

区分	月	火	水	木	金	土	日
	4月1日 4月2日 4月3日 4月4日 4月5日						
給食なし			4	4	4	—	—
通常給食			0	0	0	—	—
簡易給食			0	0	0	—	—
不明			0	0	0	—	—
休校/長期休暇			201	201	201	—	—
	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日
給食なし	47	51	47	20	7	—	—
通常給食	5	35	68	85	92	—	—
簡易給食	0	0	0	0	0	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	153	119	90	100	106	—	—
	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日
給食なし	11	4	4	10	5	—	—
通常給食	59	65	45	36	38	—	—
簡易給食	0	0	0	0	0	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	135	136	156	159	162	—	—
	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日
給食なし	5	6	13	11	10	—	—
通常給食	23	12	6	2	4	—	—
簡易給食	0	0	0	0	0	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	177	187	186	192	191	—	—
	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日			
給食なし	7	7	—	9			
通常給食	3	4	—	1			
簡易給食	0	0	—	0			
不明	0	0	—	0			
休校/長期休暇	195	194	—	195			

表 3-2. 2020 年 5 月の給食実施状況

区分	月	火	水	木	金	土	日
					5月1日	5月2日	5月3日
給食なし					7	—	—
通常給食					2	—	—
簡易給食					0	—	—
不明					0	—	—
休校/長期休暇					196	—	—
	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日
給食なし	—	—	—	18	21	—	—
通常給食	—	—	—	6	6	—	—
簡易給食	—	—	—	0	0	—	—
不明	—	—	—	0	0	—	—
休校/長期休暇	—	—	—	181	178	—	—
	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日
給食なし	19	20	21	22	22	—	—
通常給食	22	26	29	28	32	—	—
簡易給食	0	0	0	0	0	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	164	159	155	155	151	—	—
	5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日
給食なし	42	48	48	53	54	—	—
通常給食	36	36	35	41	35	—	—
簡易給食	0	0	0	6	6	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	127	121	122	105	110	—	—
	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日
給食なし	43	46	40	42	41	—	—
通常給食	71	73	79	78	74	—	—
簡易給食	11	11	12	12	12	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	80	75	74	73	78	—	—

表 3-3. 2020 年 6 月の給食実施状況

区分	月	火	水	木	金	土	日
	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日
給食なし	55	53	43	43	42	—	—
通常給食	131	133	142	146	147	—	—
簡易給食	16	16	19	15	15	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	3	3	1	1	1	—	—
	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日
給食なし	22	21	21	22	21	—	—
通常給食	157	158	159	158	159	—	—
簡易給食	25	25	24	24	24	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	1	1	1	1	1	—	—
	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日
給食なし	13	8	8	9	8	—	—
通常給食	178	181	181	180	175	—	—
簡易給食	13	15	15	15	15	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	1	1	1	1	7	—	—
	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日
給食なし	7	7	4	4	4	—	—
通常給食	183	183	186	186	186	—	—
簡易給食	15	15	15	15	15	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	0	0	0	0	0	—	—
	6月29日	6月30日					
給食なし	5	5					
通常給食	182	185					
簡易給食	15	15					
不明	0	0					
休校/長期休暇	3	0					

表 3-4. 2020 年 7 月の給食実施状況

区分	月	火	水	木	金	土	日
			7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日
給食なし			0	1	0	—	—
通常給食			193	192	192	—	—
簡易給食			12	12	12	—	—
不明			0	0	0	—	—
休校/長期休暇			0	0	1	—	—
	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日
給食なし	0	3	6	5	2	—	—
通常給食	192	167	163	179	180	—	—
簡易給食	11	11	11	11	11	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	2	24	25	10	12	—	—
	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日
給食なし	2	2	2	4	6	—	—
通常給食	189	176	190	189	187	—	—
簡易給食	11	11	11	11	11	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	3	16	2	1	1	—	—
	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日
給食なし	9	9	8	—	—	—	—
通常給食	183	178	175	—	—	—	—
簡易給食	12	12	15	—	—	—	—
不明	0	0	0	—	—	—	—
休校/長期休暇	1	6	7	—	—	—	—
	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日		
給食なし	19	19	22	24	33		
通常給食	158	158	154	148	137		
簡易給食	15	15	15	15	15		
不明	0	0	0	0	0		
休校/長期休暇	13	13	14	18	20		

表 3-5. 2020 年 8 月の給食実施状況

区分	月	火	水	木	金	土	日
						8月1日	8月2日
給食なし						-	-
通常給食						-	-
簡易給食						-	-
不明						-	-
休校/長期休暇						-	-
	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日	8月9日
給食なし	10	10	9	8	20	-	-
通常給食	57	57	55	49	32	-	-
簡易給食	10	10	10	11	9	-	-
不明	0	0	0	0	0	-	-
休校/長期休暇	128	128	131	137	144	-	-
	8月10日	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日
給食なし	-	1	1	0	0	-	-
通常給食	-	0	0	0	0	-	-
簡易給食	-	0	0	0	0	-	-
不明	-	0	0	0	0	-	-
休校/長期休暇	-	204	204	205	205	-	-
	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日
給食なし	21	23	26	34	25	-	-
通常給食	15	29	41	62	74	-	-
簡易給食	1	1	3	3	3	-	-
不明	0	0	0	0	0	-	-
休校/長期休暇	168	152	135	106	103	-	-
	8月24日	8月25日	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日
給食なし	35	24	21	19	13	-	-
通常給食	115	143	150	156	163	-	-
簡易給食	13	10	10	9	9	-	-
不明	0	0	0	0	0	-	-
休校/長期休暇	42	28	24	21	20	-	-
	8月31日						
給食なし	13						
通常給食	162						
簡易給食	9						
不明	0						
休校/長期休暇	21						

表 3-6. 2020 年 9 月の給食実施状況

区分	月	火	水	木	金	土	日
	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	
給食なし	5	1	4	4	—	—	
通常給食	197	198	199	198	—	—	
簡易給食	2	2	2	2	—	—	
不明	0	0	0	0	—	—	
休校/長期休暇	1	4	0	1	—	—	
	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	9月11日	9月12日	9月13日
給食なし	3	1	1	2	2	—	—
通常給食	165	200	202	200	201	—	—
簡易給食	1	1	1	1	1	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	36	3	1	2	1	—	—
	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日
給食なし	2	2	2	3	6	—	—
通常給食	184	201	202	201	197	—	—
簡易給食	1	1	1	1	1	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	18	1	0	0	1	—	—
	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日
給食なし	—	—	2	11	7	—	—
通常給食	—	—	195	190	193	—	—
簡易給食	—	—	1	1	1	—	—
不明	—	—	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	—	—	7	3	4	—	—
	9月28日	9月29日	9月30日				
給食なし	5	5	3				
通常給食	174	193	200				
簡易給食	1	1	1				
不明	0	0	0				
休校/長期休暇	25	6	1				

表 3-7. 2020 年 10 月の給食実施状況

区分	月	火	水	木	金	土	日
				10月1日	10月2日	10月3日	10月4日
給食なし				6	8	—	—
通常給食				196	193	—	—
簡易給食				1	1	—	—
不明				0	0	—	—
休校/長期休暇				2	3	—	—
	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日
給食なし	4	5	6	7	4	—	—
通常給食	190	195	197	195	200	—	—
簡易給食	1	1	1	1	1	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	10	4	1	2	0	—	—
	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日
給食なし	2	4	4	4	4	—	—
通常給食	194	198	199	197	199	—	—
簡易給食	1	1	1	1	1	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	8	2	1	3	1	—	—
	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日
給食なし	1	1	1	5	4	—	—
通常給食	192	202	202	199	201	—	—
簡易給食	0	0	0	0	0	—	—
不明	0	0	0	0	0	—	—
休校/長期休暇	12	2	2	1	0	—	—
	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	
給食なし	2	3	2	3	2	—	
通常給食	178	200	200	201	202	—	
簡易給食	0	0	3	0	0	—	
不明	0	0	0	0	0	—	
休校/長期休暇	25	2	0	1	1	—	

6. 給食調査の解析結果：簡易給食について

研究分担者：村山 伸子（新潟県立大学 人間生活学部）
研究協力者：小島 唯（新潟県立大学 人間生活学部）

研究要旨

【目的】新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による学校休業を含む給食実施なしと簡易給食の実施状況および簡易給食の提供内容の実態を把握する。

【方法】全国の公立小学校および中学校から無作為抽出した479校を対象とした。2020年4～10月の学校給食実施状況をカレンダー式で回答，簡易給食期間の献立の提出を依頼した。

【結果】解析対象校は205校であった（適格率42.8%）。簡易給食を1日以上実施していた学校は55校であった（実施率26.8%）。給食実施なし日数，簡易給食実施日数の中央値（25, 75%タイル値）は各々50（43-56）日，10（5-16）日であった。緊急事態宣言の期間が長い地域で，給食実施なし日数が多かったが，簡易給食実施日数に差はみられなかった。解析対象献立は，延べ871日分であった。簡易給食実施期間が短い学校の献立で調理された料理数が少なく，調理の不要な単品数が多く，主菜，副菜の出現頻度が低かった一方，デザートなどの単品の出現頻度が高かった。

【結論】新型コロナ感染拡大による学校給食の実施中断や簡易給食の実施により，子どもの栄養摂取状況に影響があった可能性が示唆された。簡易給食の実施が短期間の学校の献立では単品の提供が多く，長期間の献立では，主食・主菜・副菜を組み合わせた献立が提供されていた。

A. 研究目的

2020年，新型コロナウイルス感染症（以下，新型コロナ）の感染拡大により，我々の生活は大きく変容した。子どもへの影響として，感染拡大を早期に終息させることを目的として，2020年3月2日より春季休業まで小中高等学校の一斉臨時休校が要請された¹⁾。その後の4月7日から16日にかけて，新型インフルエンザ等対策特別措置法

に基づいた，新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言（以下，緊急事態宣言）が全国に発令された²⁾。これにより，多くの小中学校で臨時休業が継続されることとなった。4月22日時点で，全国の小中学校の95%が臨時休業を実施していた³⁾。緊急事態宣言は，5月25日に北海道，東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県，千葉県の5都道県で解除されるまで，最長で49日間発令された。緊急事態宣言が

解除されたことにより、6月1日時点では、99%の小中学校では学校が再開されたが、全面再開は5割程度であり、残りの学校では短縮授業や分散登校が実施された⁴⁾。

学校再開後も感染防止対策を徹底することが求められ、学校給食の場面においても、感染リスクの高い活動である一方、児童生徒の健やかな育ちに重要な機能であることから、感染リスクに配慮した積極的な検討が必要となった⁵⁾。学校給食はこれまで多くの学校で、児童生徒自らが配膳し、喫食する形式がとられてきたが、感染拡大防止対策の観点より、これまで通りの給食提供が難しい状況となった。感染が拡大している地域では、配膳の過程を省略できる品数の少ない献立や、配膳を伴わない簡易な給食（パン、牛乳等）（以下、簡易給食）の提供について示された⁵⁾。

これまでの研究より、学校給食は、子どもの栄養摂取状況や成長に大きく寄与することが明らかとなっている^{6,7)}。さらに、世帯の社会経済状態による児童の食品や栄養摂取の格差を縮小することに寄与することが示されている^{8,9)}。新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的とした緊急事態宣言による臨時休業や簡易給食の提供による学校給食内容の変更は、子どもの食生活に影響を及ぼしたことが示唆される。しかしながら、学校給食の有無や簡易給食の実施についての現状は明らかとなっていない。

そこで本研究は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の影響として、学校休業を含む給食実施なしと簡易給食の実施状況の実態を把握すること、また、簡易給食として提供された献立内容を分析し、提供内容の実態を把握することを目的とした。

B. 方法

1. 調査対象と手続き

本研究は給食調査として実施した。全国8地域区分（北海道・東北、関東、北陸甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）から、無作為に各地域6～7自治体、計50自治体を抽出した。対象自治体内の公立小学校および中学校を各5校無作為に抽出し、調査対象校とした。自治体内の小中学校または中学校が5校未満であった場合は、その自治体の全校を対象とした。479校を対象に調査を実施した（調査対象校480校のうち、1校重複のため）。

2020年11月、調査対象校の学校長を經由し、栄養教諭へ調査依頼文書、調査票一式を郵送し、回答を依頼した。依頼文書では調査の目的に加え、公表する結果はすべて統計処理し、学校が特定されない形で公表することを記載した。また、研究への協力は自由意思であり、参加を希望しない場合は不参加が可能である旨を記載した。本研究は、国立成育医療研究センター倫理委員会（承認番号：2020-168）および新潟県立大学倫理審査委員会（承認番号：2025）の承認を得て実施した。

2. 調査項目

2020年4月～10月の計7か月間の学校給食実施状況について、各日の実施状況をカレンダー式で回答させた。各日、児童生徒が登校した日について「給食なし」「通常給食」「簡易給食」の中から選択させ、長期休暇や自主登校を除く休校期間は別途記入する旨を依頼した。また、簡易給食を実施した場合、実施された日の給食献立表（料理名が記載されたもの）を添付するよう依頼した。

3. 解析方法

学校給食実施状況として、調査票に「給食なし」と回答、または、長期休暇・休校と記入されていた日を「給食実施なし日数」としてカウントした。土日祝日を除いた平日の状況をカウントの対象とし、調査期間全体および月別に集計した。回収した調査票から、児童生徒が登校したが「給食なし」の日と、登校のなかった日をすべて分離できなかったため、本研究では一括して扱った。

「簡易給食実施日数」は、調査票に「簡易給食」と回答された日数をカウントした。調査票より、実施状況の回答に欠損があった日は、各学校のホームページに公開された年間行事予定等を参照し実施状況を代入した。実施状況が不明な日があった学校、簡易給食を実施していたが献立表の提出に不備があった学校は解析から除外した。

給食実施なし日数、簡易給食実施日数およびその合計日数について、緊急事態宣言の期間によって対象校が属する都道府県に基づいて3群に分類し、各日数の中央値を **Kruskal-Wallis** 検定、多重比較では **Bonferroni** の補正を用いて比較した。また、簡易給食実施状況として、実施なし、1～5日間、6～10日間、11～15日間、16日以上の5群に解析対象校を分類し、属性について χ^2 検定を用いて比較した。

献立内容の分析として、収集した簡易給食の献立から1食ごとに料理数をカウントした。はじめに献立表に記載されたすべての料理を「料理数」としてカウントした。料理数のカウントからジャム、ふりかけ等は除外した。次に、料理数の内訳として、米飯、主菜、副菜等、給食室での調理が必要な料理を「調理された料理数」、パンおよび牛乳を

除いた、給食室での調理が不要な料理（ゼリー、ヨーグルト、野菜ジュース等）を「単品数」としてカウントした。献立の構成として、各日の献立の組み合わせについて「牛乳のみ」、「パン・牛乳のみ」、「パン・牛乳・単品」、「その他」の4群に分類した。また、各料理の出現頻度として、主食、主菜、副菜、果物、牛乳、その他乳製品、デザートその他の7群に該当する料理が提供されたかカウントし、各群の出現頻度を把握した。主食はさらに米飯、パン、麺に細分した。主菜、副菜の出現頻度は、主菜は肉類、魚類、豆類、卵類のいずれか、副菜は野菜類、きのこ類、海藻類のいずれかが献立内のメニューに含まれていたら出現したとみなしてカウントした。

対象献立は、学校単位の簡易給食実施日数区分により、4群に分類した。実施日数区分による料理数、調理された料理数、単品数および各料理の出現頻度について、量的データは **Kruskal-Wallis** 検定、多重比較に **Bonferroni** の補正、出現頻度は χ^2 検定を用いて比較した。

解析には統計解析パッケージ **IBM SPSS Statistics 27.0 for Windows**（日本アイ・ビー・エム株式会社）を用い、有意水準は5%（両側検定）とした。

C. 結果

1. 解析対象校の属性

調査対象校479校のうち、回収数は213校（回収率44.5%）であった。回収校のうち、給食実施状況が不明な日があった（ $n=4$ ）、または、簡易給食を実施した学校で添付された献立表に不備があった（ $n=4$ ）学校を除外し（ $n=8$ ）、解析対象校は205校であった（適格率42.8%）。また、本研究では、4月

から10月の土日祝日を除く144日間を解析対象日数とした。

解析対象校の属性を表1に示した。調査対象校のうち、解析対象校、未回収または欠損校の学校区分の分布に差はみられなかったが、地域区分では、地域により、解析対象校の割合に差がみられた。

2. 給食実施なしと簡易給食の実施状況

通常給食が提供されなかった日数の状況として、給食実施なし(学校休業または給食実施なし)日数、簡易給食実施日数、給食実施なしと簡易給食実施日数の合計日数の分布を図1に示した。4~10月の解析対象日数144日間のうち、通常給食が提供されなかった日数である、給食実施なしと簡易給食実施の合計日数は、中央値(25,75パーセンタイル値)51(45-60)日であり、最小値は26日、最大値は129日であった。給食実施なし日数は中央値(25,75パーセンタイル値)50(43-56)日であった。簡易給食を1日以上実施していた学校は55校であった(実施率26.8%)。実施日数の中央値(25,75パーセンタイル値)は10(5-16)日、最小値は1日、最大値は56日であり、学校により分布にばらつきがみられた。

給食実施なしと簡易給食実施日数および合計日数の月別の分布を表2に示した。4月の簡易給食実施校はなく、ほとんどの学校で、月の半数以上、給食が実施されていなかった。給食実施なしの日数は4,5月に多く、6月には6割以上の学校で毎日学校給食が提供されていた。簡易給食は、6月に実施した学校が多かった。

次に、緊急事態宣言期間の日数区分による給食実施なしと簡易給食実施日数の比較

を表3に示した。緊急事態宣言の期間が長い地域で、給食実施なし日数が多かったが、簡易給食実施日数に差はみられなかった。

さらに、簡易給食の実施なし、または実施日数区分ごとの属性の比較を表4に示した。実施日数区分の分布は学校区分による差はみられなかった。地域区分、緊急事態宣言期間区分では分布に差がみられ、主に関東や緊急事態宣言期間の長い地域では簡易給食実施が比較的長い学校が多かった。

3. 簡易給食の実施日数区分による献立内容の比較

簡易給食として提供された献立内容を分析した。解析対象の献立は、簡易給食を実施した55校で提供された延べ871日分であった。該当の献立が提供された学校の実施日数区分によって献立を群分けし、料理数、各料理の出現頻度を比較した結果を表5に示した。調理された料理数は、簡易給食実施日数が長い学校の献立で多く、ゼリー、ヨーグルトなどの単品数は、実施日数が短い学校の献立で多かった。献立の構成として、牛乳のみの提供であった献立は全体で5献立(0.6%)であった。パンと牛乳のみで構成される献立は、実施日数が2週間、3週間の学校でみられ、パン・牛乳・単品といった調理の必要のない料理で構成された献立は、実施日数1週間または3週間の学校の献立で多くみられた。実施日数が3週間以上の学校の献立の多くは、主菜、副菜等の調理が必要な料理で構成された献立が多くみられた。各料理の出現頻度として、主食はほとんどの献立で提供されていた。提供された主食の種類として、米飯は、実施日数3週間以上の学校の献立で出現割合が高く、反対にパンの出現割合は、実施日数が短い学校の献立で多かった。

D. 考察

本研究は、新型コロナによる緊急事態宣言の影響として、学校休業を含む給食実施なしと簡易給食の実施状況および簡易給食の献立内容の実態を把握することを目的として調査を実施し、給食実施なしと簡易給食の実施状況、簡易給食献立における料理数や各料理の出現頻度が示された。

給食実施なしと簡易給食の実施状況として、給食実施なしと簡易給食実施の合計日数は、51日程度あり、最小値26日、最大値129日であった。これより、調査期間7か月のうち、最短で1か月、最大で3か月程度、通常の学校給食が提供されず、児童生徒の食事に影響が及ぼされたことが示された。給食実施なし日数は4、5月に多く、6月には6割以上の学校で毎日学校給食が提供され、簡易給食の実施率は3割程度、時期は6月に実施した学校が多かった。これは緊急事態宣言の解除により、5月下旬から6月にかけて全国で順次学校が再開されたためだといえる。6月1日時点では、短縮授業等を行う学校があったため⁴⁾、学校は再開されていたが学校給食実施なしの学校がみられた。また、緊急事態宣言の期間が長い地域では、給食実施なし日数が多かったが、簡易給食実施日数に差はみられなかった。しかしながら、実施日数区分による比較では、主に関東や緊急事態宣言期間が長い地域で、簡易給食実施日数は長い傾向であった。これより、緊急事態宣言は主に学校給食の実施有無に影響したことが示唆された。

次に、簡易給食で提供された献立内容として、簡易給食を長期間実施した学校では、短期間実施した学校の献立と比較して調理した料理数が多く、主菜・副菜を組み合わせた献立が提供されていた。簡易給食実施が短期間の場合、パンや牛乳、調理が必要な

い単品のみの提供となった学校もみられたが、簡易給食を長期間実施した学校の献立では、主菜・副菜を取り入れ、給与栄養量が通常給食と大きく変わらないよう、提供する献立が工夫されていたことが示唆された。実際に提供された献立表には、簡易給食として、盛付のしやすい料理、個包装の料理に変更しながら、給与栄養目標量に近づけた献立を提供している旨を記載した学校も複数みられた。

本研究の限界点を3点挙げる。1点目に、解析対象校が地域区分によって偏りがあったため、本研究の結果が全国の実施状況と異なる可能性がある。本研究ではそれを踏まえた解釈のため、解析対象校と未回収校の属性について示した。2点目に、本研究の調査票から、学校の臨時休業と学校が実施されていても給食が提供されなかった日数を区別することができなかったことから、給食実施なしには、両者が含まれている点である。そのため、夏季休暇等の平日の長期休暇を除外してカウントすることができなかったため、7、8月の一部の給食なしの日数には夏季休暇も含まれている。3点目に、回答の負担軽減のため、簡易給食の料理名が記載された献立表のみの提出を依頼したため、通常給食との料理数の差や、提供された給与栄養量の差を比較できなかった点である。このため、食品群の提供状況の違いは示されたが、栄養摂取状況に対する影響は明確にできなかった。

E. 結論

本研究の結果より、緊急事態宣言による学校の臨時休業で学校給食が実施されなかったことや、新型コロナ感染拡大防止対策による簡易給食の実施により、子どもの栄養摂取状況に影響があった可能性が示唆さ

れた。とくに簡易給食実施が短期間の学校の献立では単品の提供が多かった。しかしながら、実施が長期間の場合、主食・主菜・副菜を組み合わせた献立が提供されていた。今後、通常給食が提供されないことによる子どもの栄養摂取状況への影響や、通常の学校給食提供が困難な場合の対応についての検討が必要である。

参考文献

- 1) 文部科学省：新型コロナウイルス感染症対策のための小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について，
https://www.mext.go.jp/content/202002228-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf (2021年4月17日)
- 2) 内閣官房：新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の実施状況に関する報告，
https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitaisen_gen_houkoku0604.pdf (2021年4月17日)
- 3) 文部科学省：新型コロナウイルス感染症対策のための学校における臨時休業の実施状況について，
https://www.mext.go.jp/content/20200424-mxt_kouhou01-000004520_8.pdf (2021年4月17日)
- 4) 文部科学省：新型コロナウイルス感染症に関する学校の再開状況について，
https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf (2021年4月17日)
- 5) 文部科学省：学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～，
https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf (2021年4月17日)
- 6) 野末みほ, Kyungyul J., 石原洋子, 他：小学5年生の学校給食のある日とない日の食事摂取量と食事区分別の比較，*栄養学雑誌*, 68, 298-308 (2010)
- 7) Asakura, K., Sasaki, S.: School lunches in Japan: their contribution to healthier nutrient intake among elementary-school and junior high-school children, *Public Health Nutr.*, 20, 1523-1533 (2017)
- 8) Murayama, N., Ishida, H., Yamamoto, et al.: Household income is associated with food and nutrient intake in Japanese schoolchildren, especially on days without school lunch, *Public Health Nutr.*, 20, 2946-2958 (2017)
- 9) Horikawa, C., Murayama, N., Ishida, H. et al.: Nutrient adequacy of Japanese schoolchildren on days with and without a school lunch by household income, *Food and Nutr. Res.*, 64, 5377, doi.org/10.29219/fnr.v64.5377 (2020)

F. 健康危険情報

(該当なし)

G. 研究発表

(該当なし)

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

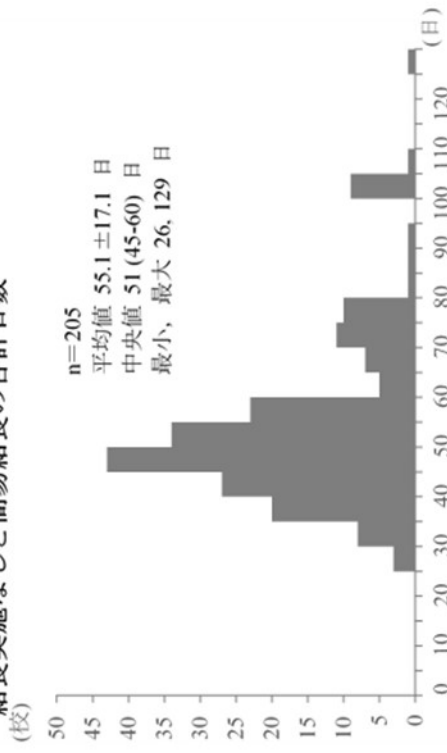
(該当なし)

表 1 解析対象校の属性

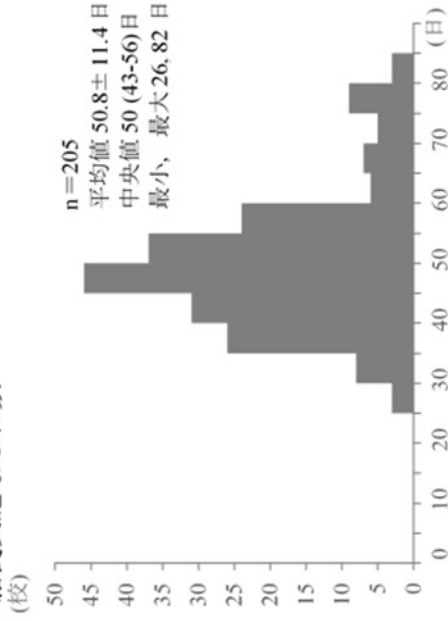
		調査対象校	解析対象校	未回収・欠損	p 値
学校区分	小学校	250	112 (44.8)	138 (55.2)	0.357 [†]
	中学校	229	93 (40.6)	136 (59.4)	
地域区分	北海道・東北	60	29 (48.3)	31 (51.7)	0.005 [‡]
	関東	69	29 (42.0)	40 (58.0)	
	北陸甲信越	54	33 (61.1)	21 (38.9)	
	中部	56	16 (28.6)	40 (71.4)	
	近畿	70	20 (28.6)	50 (71.4)	
	中国	60	28 (46.7)	32 (53.3)	
	四国	54	27 (50.0)	27 (50.0)	
	九州・沖縄	56	23 (41.1)	33 (58.9)	

n(%), [†] Fisher の正確確率検定, [‡] χ^2 検定

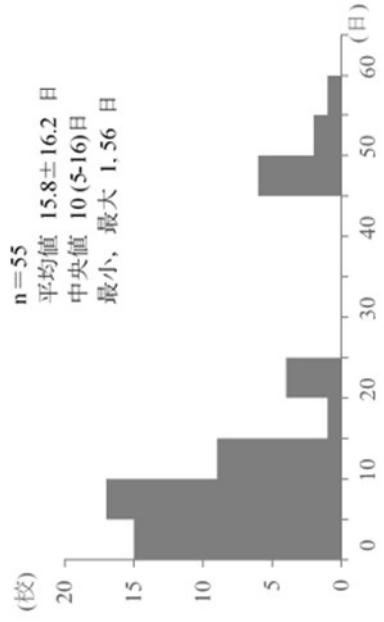
給食実施なしと簡易給食の合計日数



給食実施なし日数



簡易給食実施日数



平均値は平均値±標準偏差, 中央値は, 中央値 (25,75%タイル値) で示した。

図1 給食実施なしと簡易給食実施日数の分布

表2 月別の給食実施なしと簡易給食実施日数の分布

日数区分 [†]	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	(21日間) [‡]	(18日間)	(22日間)	(21日間)	(22日間)	(21日間)	(20日間)	(20日間)	(20日間)	(20日間)	(20日間)	(22日間)	(22日間)	(22日間)
給食実施なし	0 (0.0)	1 (0.5)	117 (57.1)	104 (50.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	99 (48.3)	120 (58.5)						
簡易給食実施	1 (0.5)	25 (12.2)	40 (19.5)	61 (29.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	102 (49.8)	83 (40.5)						
合計日数	6 (2.9)	12 (5.9)	21 (10.2)	29 (14.1)	69 (33.7)	3 (1.5)	1 (0.5)							
n=205	32 (15.6)	41 (20.0)	7 (3.4)	0 (0.0)	82 (40.0)	0 (0.0)	1 (0.5)							
16-20日間	80 (39.0)	126 (61.5)	2 (1.0)	0 (0.0)	54 (26.3)	1 (0.5)	0 (0.0)							
21-22日間	86 (42.0)	-	18 (8.8)	11 (5.4)	-	-	0 (0.0)							
給食実施なし	0 (0.0)	1 (0.5)	133 (64.9)	116 (56.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	101 (49.3)	123 (60.0)						
日数	1 (0.5)	25 (12.2)	49 (23.9)	67 (32.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	101 (49.3)	81 (39.5)						
n=205	6 (2.9)	12 (5.9)	9 (4.4)	22 (10.7)	79 (38.5)	3 (1.5)	1 (0.5)							
11-15日間	32 (15.6)	53 (25.9)	9 (4.4)	0 (0.0)	82 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)							
16-20日間	80 (39.0)	114 (55.6)	5 (2.4)	0 (0.0)	44 (21.5)	0 (0.0)	0 (0.0)							
21-22日間	86 (42.0)	-	0 (0.0)	0 (0.0)	-	-	0 (0.0)							
簡易給食実施	55 (100.0)	40 (72.7)	18 (32.7)	37 (67.3)	37 (67.3)	53 (96.4)	51 (92.7)							
日数	0 (0.0)	12 (21.8)	11 (20.0)	1 (1.8)	7 (12.7)	1 (1.8)	3 (5.5)							
n=55	0 (0.0)	3 (5.5)	13 (23.6)	6 (10.9)	4 (7.3)	0 (0.0)	0 (0.0)							
11-15日間	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (7.3)	0 (0.0)	7 (12.7)	0 (0.0)	1 (1.8)							
16-20日間	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (9.1)	4 (7.3)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)							
21-22日間	0 (0.0)	-	4 (7.3)	7 (12.7)	-	-	0 (0.0)							

n (%), † 各月で該当する日数区分がない場合, 負記号(-)を入力した, ‡ 各月の対象日数

表3 緊急事態宣言期間の日数区分による給食実施なし（学校休業）と簡易給食実施日数

	緊急事態宣言期間†			p 値‡
	29 日間	36-45 日間	49 日間	
給食なしと 簡易給食の 合計日数 n=205	n (%) 155 (75.6) 平均値±標準偏差 51.2±15.2 中央値 (25,75% タイル値) 49 (43-54) ^{ab} 最小, 最大 26, 108	31 (15.1) 64.6±17.4 60 (53-75) ^a 28, 129	19 (9.3) 71.7±15.7 67 (57-81) ^b 55, 104	<0.001
給食なし 日数 n=205	n (%) 155 (75.6) 平均値±標準偏差 47.4±8.6 中央値 (25,75% タイル値) 47 (42-52) ^{ab} 最小, 最大 26, 77	31 (15.1) 58.2±12.7 56 (49-67) ^a 28, 79	19 (9.3) 67.0±10.7 66 (57-80) ^b 52, 82	<0.001
簡易給食 日数 n=55	n (%) 35 (63.7) 平均値±標準偏差 16.8±18.5 中央値 (25,75% タイル値) 8 (5-16) 最小, 最大 1, 54	13 (23.6) 15.1±13.5 11 (10-17) 4, 56	7 (12.7) 12.7±6.5 10 (8-22) 7, 22	0.464

† 緊急事態宣言期間 49 日間：東京、埼玉、千葉、神奈川、36~45 日間：北海道、大阪、兵庫、京都、福岡、29 日間：その他 37 県、

‡ Kruskal-Wallis 検定, Bonferroni の補正による多重比較 同じアルファベットの群間で有意差あり (p<0.05/6)

表4 簡易給食の実施日数区分ごとの属性の比較

学校区分	n	実施なし	1-5日間	6-10日間	11-15日間	16日以上	p値	
小学校	112	79 (70.5)	11 (9.8)	10 (8.9)	3 (2.7)	9 (8.0)	0.326†	
中学校	93	71 (76.3)	4 (4.3)	7 (7.5)	6 (6.5)	5 (5.4)		
地域区分							<0.001§	
北海道・東北	29	25 (86.2)	2 (10.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)		
関東	29	13 (44.8)	0 (0.0)	5 (17.2)	3 (10.3)	8 (27.6)		
北陸甲信越	33	22 (66.7)	5 (15.2)	6 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)		
中部	16	11 (68.8)	2 (12.5)	3 (18.8)	0 (0.0)	0 (0.0)		
近畿	20	12 (60.0)	0 (0.0)	3 (15.0)	4 (20.0)	1 (5.0)		
中国	28	25 (89.3)	3 (10.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)		
四国	27	23 (85.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.7)	3 (11.1)		
九州・沖縄	23	19 (82.6)	2 (8.7)	0 (0.0)	1 (4.3)	1 (4.3)		
緊急事態宣言 期間区分†								0.005§
29日間	155	120 (77.4)	13 (8.4)	9 (5.8)	4 (2.6)	9 (5.8)		
36-45日間	31	18 (58.1)	2 (6.5)	3 (9.7)	5 (16.1)	3 (9.7)		
49日間	19	12 (63.2)	0 (0.0)	5 (26.3)	0 (0.0)	2 (10.5)		

n(%)

† 緊急事態宣言期間 49日間：東京、埼玉、千葉、神奈川、36~45日間：北海道、大阪、兵庫、京都、福岡、29日間：その他37県、

‡ χ^2 検定, § Fisherの正確確率検定

表5 簡易給食の実施日数区分ごとの献立内容の比較

	全体 N=871	1-5 日間 (1 週間) n=54 (6.2%)	6-10 日間 (2 週間) n=151 (17.3%)	11-15 日間 (3 週間) n=110 (12.6%)	16 日以上 (3 週以上) n=556 (63.8%)	p 値
料理数						
平均値±標準偏差	3.7±0.7	3.6±0.7	3.8±0.9	3.4±0.8	3.8±0.7	
中央値(25,75%タイル値)	4 (3-4)	4 (3-4)	4 (3-4) ^{ab}	3 (3-4) ^a	4 (3-4) ^b	<0.001 [†]
最小, 最大	1, 6	2, 5	2, 5	2, 6	1, 6	
調理された料理数						
平均値±標準偏差	1.8±0.9	1.2±1.0	1.9±1.1	0.9±0.9	2.1±0.8	
中央値(25,75%タイル値)	2 (1-3)	1 (0-2) ^{ab}	2 (1-3) ^{ac}	1 (0-2) ^{cd}	2 (2-3) ^{bd}	<0.001 [†]
最小, 最大	0, 4	0, 3	0, 3	0, 3	0, 4	
単品数 (パン・牛乳除く)						
平均値±標準偏差	0.5±0.5	1.0±0.5	0.5±0.5	0.6±0.6	0.4±0.5	
中央値(25,75%タイル値)	0 (0-1)	1 (1-1) ^{ab}	1 (0-1) ^{ac}	1 (0-1) ^d	0 (0-1) ^{bcd}	<0.001 [†]
最小, 最大	0, 2	0, 2	0, 1	0, 2	0, 2	
パン牛乳のみ給食の出現頻度 n(%)						
牛乳のみ	5 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (0.9)	<0.001 [‡]
パン牛乳のみ	21 (2.4)	0 (0.0)	10 (6.6)	11 (10.0)	0 (0.0)	
パン牛乳単品	59 (6.8)	11 (20.4)	10 (6.6)	38 (34.5)	0 (0.0)	
その他	786 (90.2)	43 (79.6)	131 (86.8)	61 (55.5)	551 (99.1)	
主食出現頻度 n(%)[§]						
米飯	866 (99.4)	54 (100.0)	151 (100.0)	110 (100.0)	551 (99.1)	0.741 [‡]
パン	451 (51.8)	29 (53.7)	75 (49.7)	10 (9.1)	337 (60.6)	<0.001
麺	403 (46.3)	25 (46.3)	69 (45.7)	100 (90.9)	209 (37.6)	<0.001
その他	90 (10.3)	0 (0.0)	15 (9.9)	11 (10.0)	64 (11.5)	0.069
各料理の出現頻度 n(%)[§]						
主菜	770 (88.4)	37 (68.5)	126 (83.4)	61 (55.5)	546 (98.2)	<0.001
副菜	775 (89.0)	32 (59.3)	131 (86.8)	61 (55.5)	551 (99.1)	<0.001
果物	92 (10.6)	11 (20.4)	12 (7.9)	17 (15.5)	52 (9.4)	0.017
牛乳	849 (97.5)	54 (100.0)	141 (93.4)	110 (100.0)	544 (97.8)	0.005 [‡]
その他乳製品	72 (8.3)	11 (20.4)	12 (7.9)	3 (2.7)	46 (8.3)	0.002
デザートその他	211 (24.2)	31 (57.4)	57 (37.7)	44 (40.0)	79 (14.2)	<0.001

[†]Kruskal-Wallis 検定, Bonferroni の補正による多重比較 同じアルファベットのある群間で有意差あり ($p<0.05/6$),

[‡]Fisher の正確確率検定, その他 χ^2 検定

[§]出現頻度ありの群の値のみ記載

別紙4

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					

令和3年4月13日

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
所属研究機関長 職名 理事長
氏名 五十嵐 隆



次の職員の令和 2 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 厚生労働科学特別研究事業
- 研究課題名 新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化及びその要因の解明のための研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 社会医学研究部 部長
(氏名・フリガナ) 森崎 菜穂・モリサキ ナホ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立成育医療研究センター	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

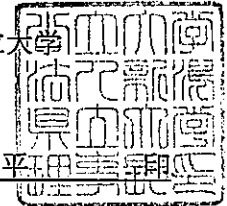
当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年4月13日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 新潟県立大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 若杉 隆平



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科学特別研究事業
2. 研究課題名 新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化及びその要因の解明のための研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 新潟県立大学人間生活学部 健康栄養学科 教授
(氏名・フリガナ) 村山 伸子・ムラヤマ ノブコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	新潟県立大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

令和3年4月13日

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
所属研究機関長 職名 理事長
氏名 五十嵐 隆夫



次の職員の令和 2 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 厚生労働科学特別研究事業
- 2. 研究課題名 新型コロナウイルス感染症流行前後における親子の栄養・食生活の変化及びその要因の解明のための研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 社会医学研究部 研究員
(氏名・フリガナ) 半谷 まゆみ・ハンガイ マユミ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立成育医療研究センター	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。